



2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月4日
ソフトバンク株式会社

免責事項

本資料に含まれる計画、見通し、戦略その他の将来に関する記述は、本資料作成日時点において当社が入手している情報および合理的であると判断している一定の前提に基づいており、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績などは、経営環境の変動などにより、当該記述と大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

2023年3月期 第2四半期

連結業績

売上高

[円]

2兆7,242億

2兆8,086億

3%増収

2021年度上期

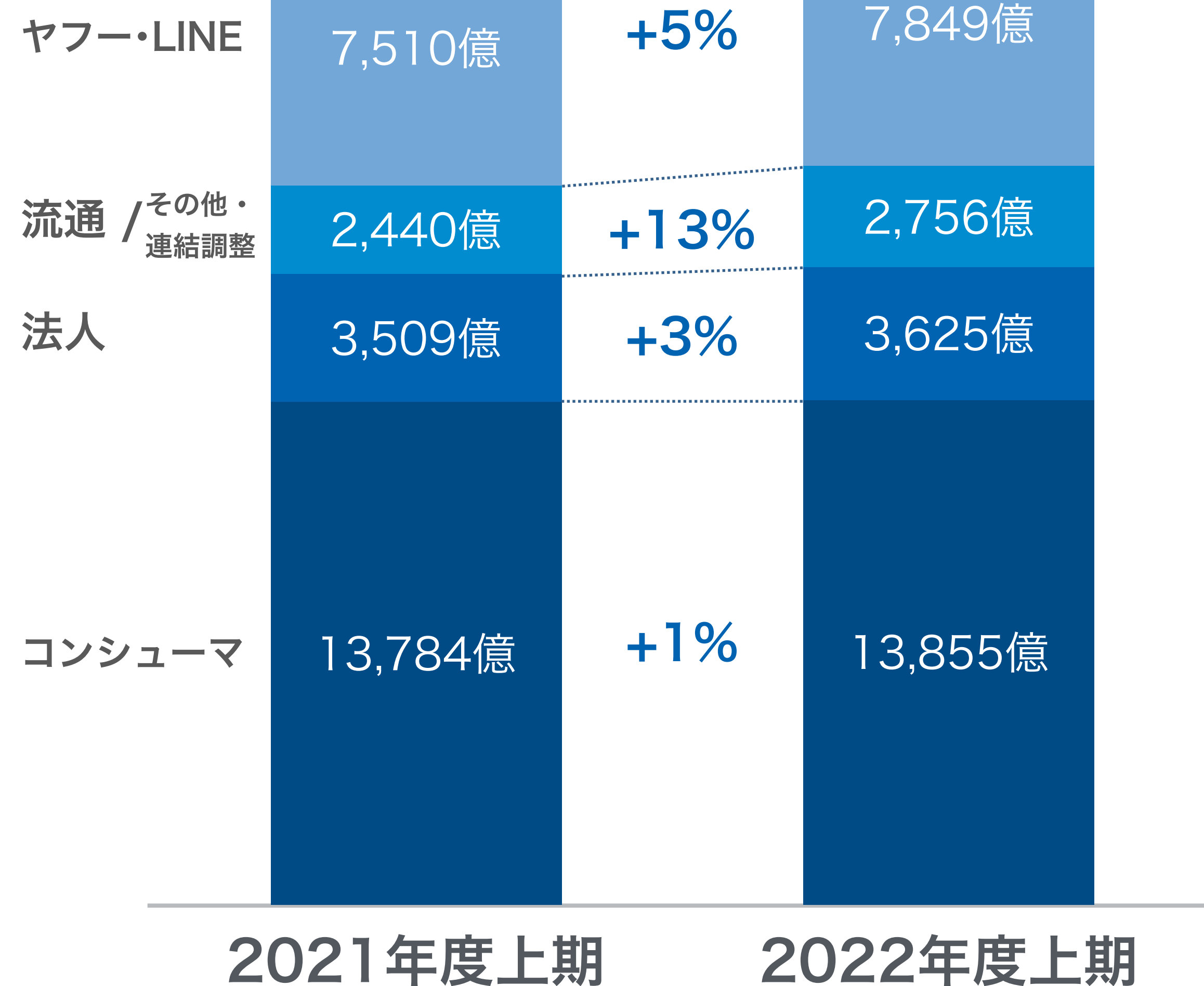
2022年度上期

(注) 本資料では、増減について特に記載のない場合は前年同期比を指します。
また端数処理について、特に記載のない場合は表示単位の小数点第一位を四捨五入しています。

売上高 セグメント別

[円]

2兆7,242億 2兆8,086億



全セグメント
増収

営業利益

[円]

SoftBank

5,708億



4,986億



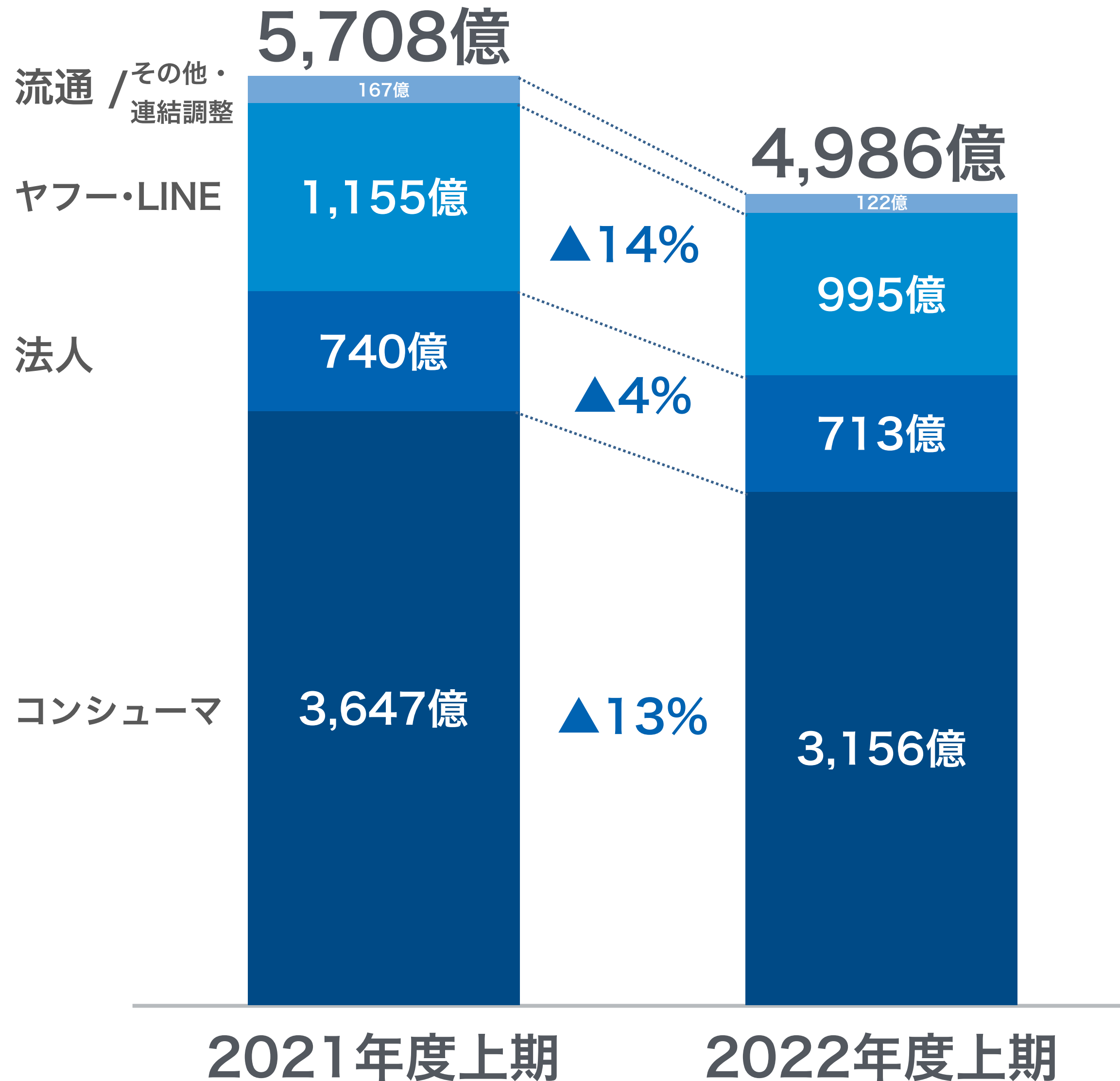
2021年度上期

2022年度上期

13%減益

営業利益 セグメント別

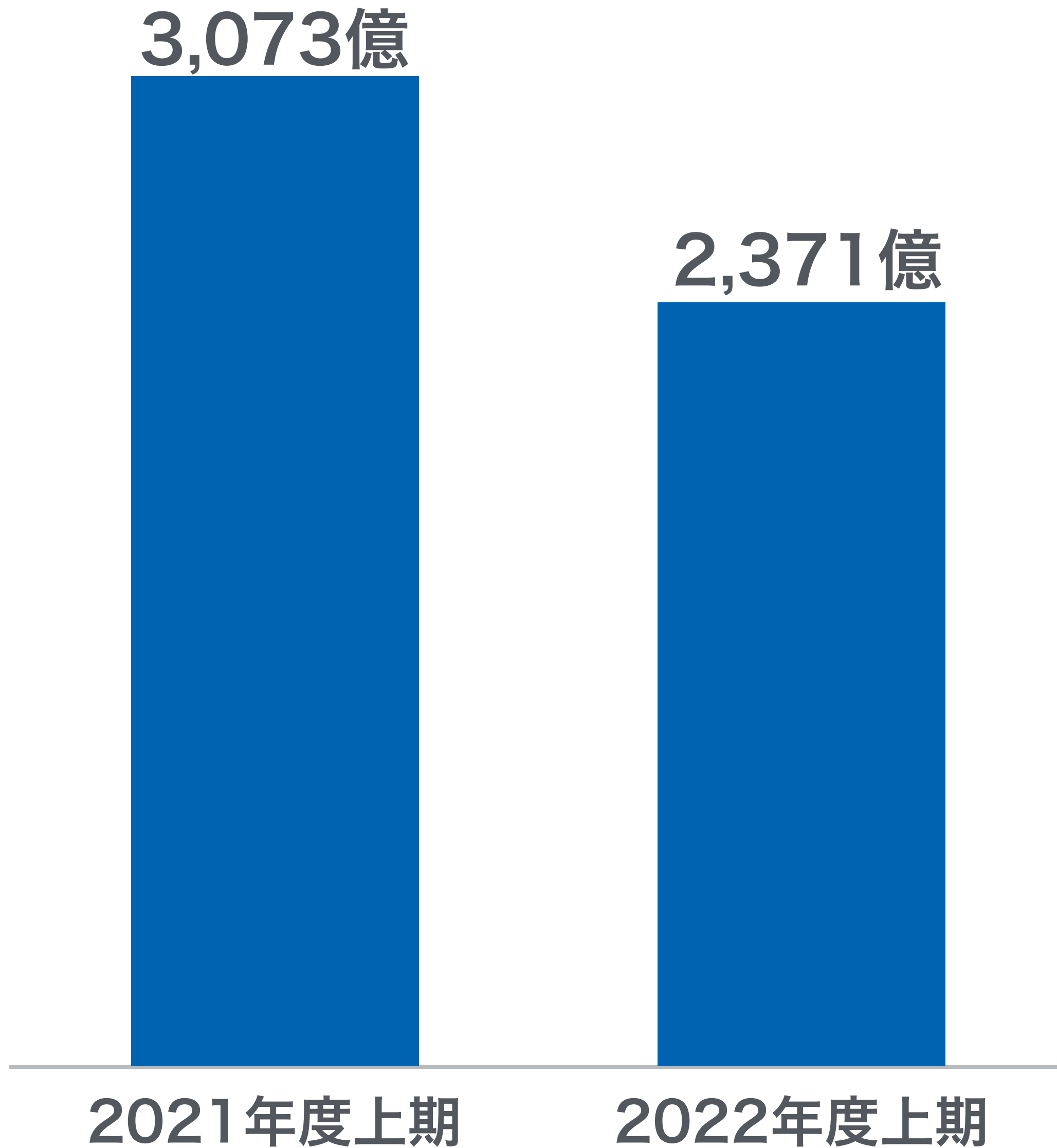
[円]



セグメント	増減要因
流通 その他・連結調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流通事業 +1億円 ・ 一部子会社での減損等
ヤフー・LINE	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に成長に向けた採用強化、販促費増等 ▲160億円
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時的な費用の戻し入れ影響(21年度Q1)の反動 ▲27億円 ・ 訴訟に係る引当金の計上(22年度Q2) ▲90億円 ・ HTKK子会社化 再測定益(22年度Q2) +61億円
コンシューマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信料値下げの影響 ▲490億円 ・ 獲得関連費用の増加 ▲210億円 ・ 契約数増・コスト削減等 +209億円

純利益

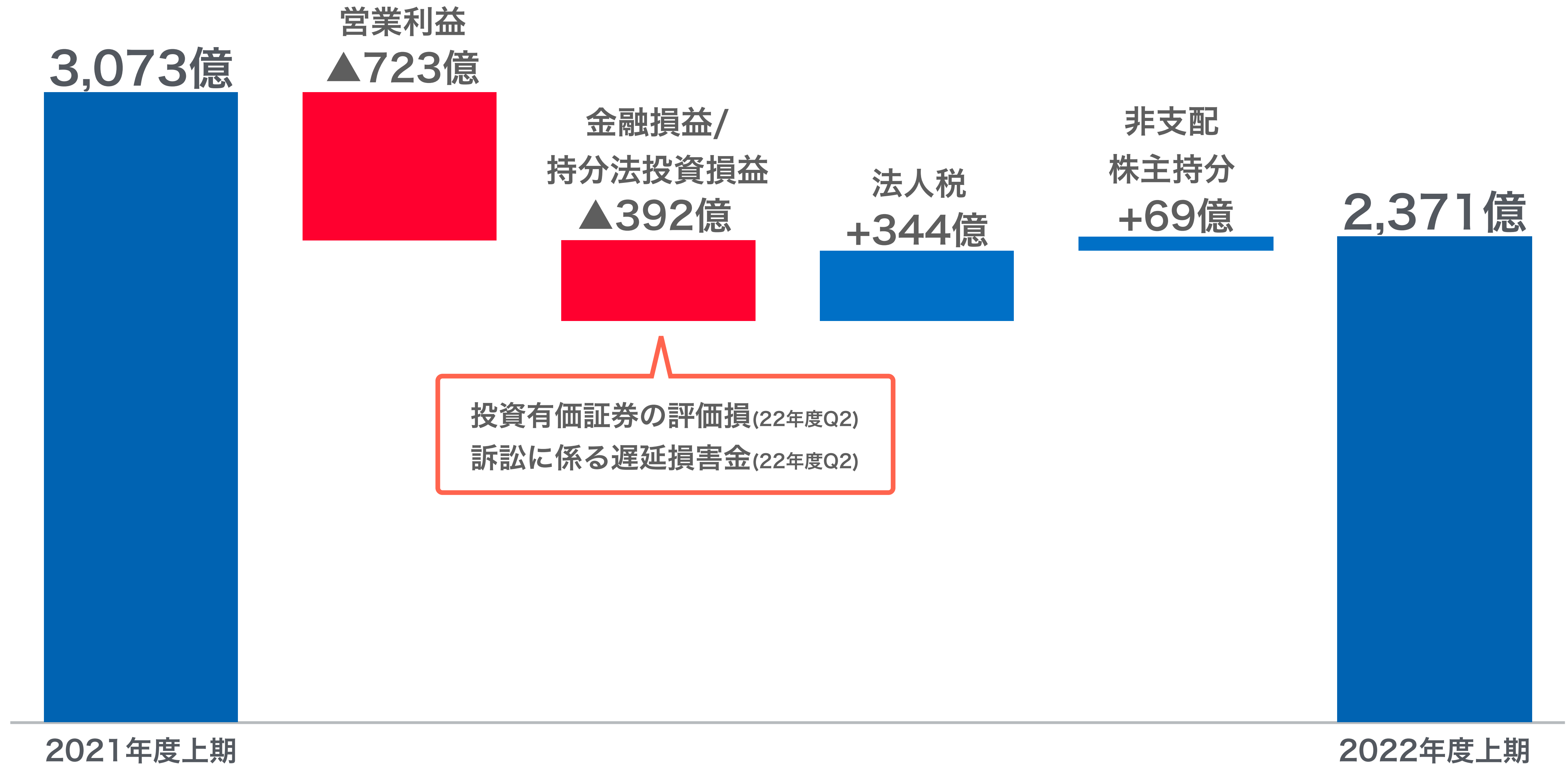
[円]



23%減益

純利益 増減分析

[円]



2022年度 第2四半期 連結業績

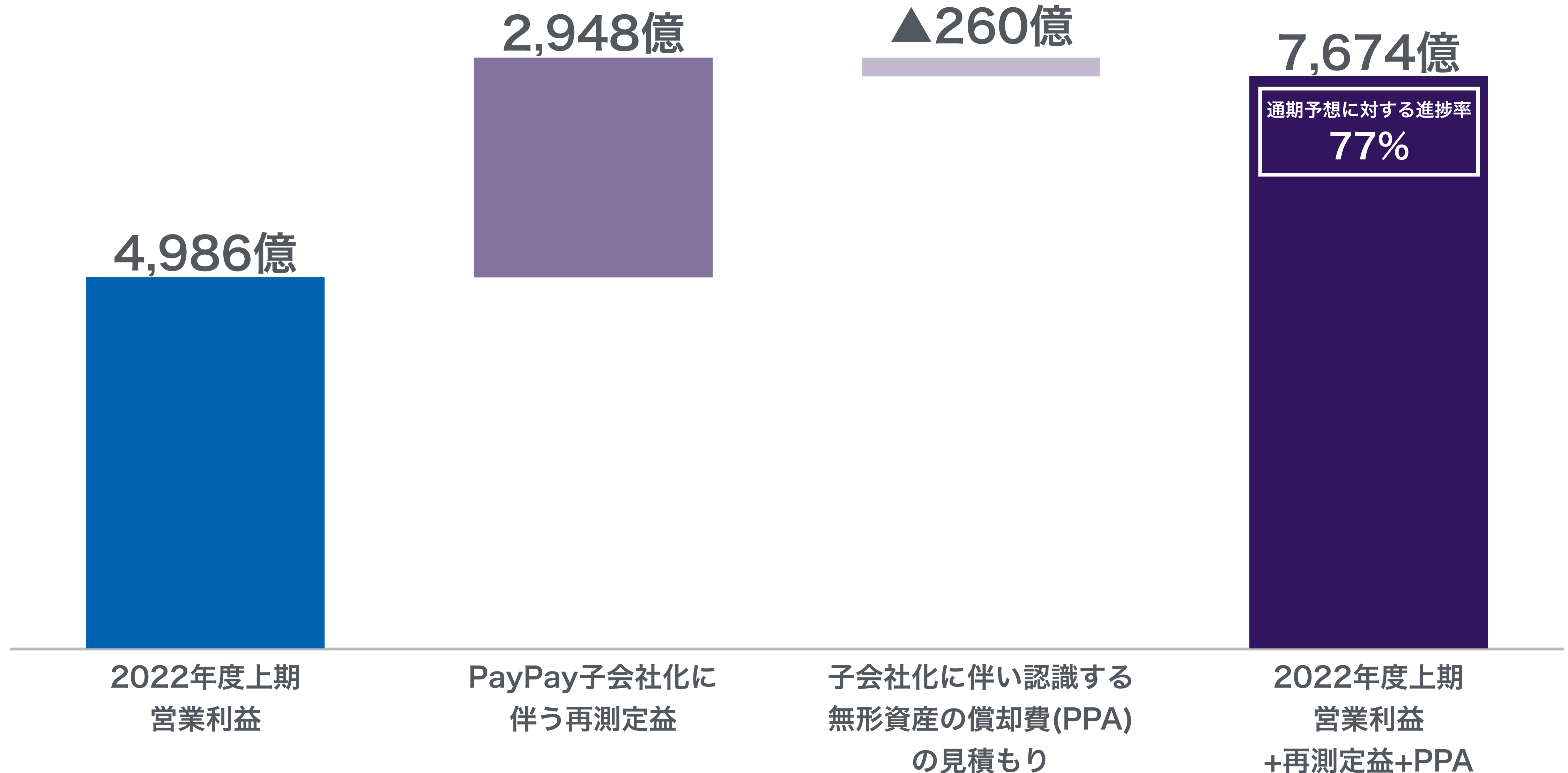
[円]

	2021年度 上期	2022年度 上期	増減	増減率
売上高	2兆7,242億	2兆8,086億	+843億	+3%
営業利益	5,708億	4,986億	▲723億	▲13%
純利益	3,073億	2,371億	▲701億	▲23%

PayPay連結の影響額について

PayPay連結に伴う影響額

[円]



(注) 共通支配下の取引に係る会計方針の変更およびPPA償却額(PayPay株式会社分含む)については、2022年11月4日現在において監査未了です。 | 1

2022年度 通期業績予想

[円]

上方修正を実施

	期初予想	今回予想
売上高	5兆9,000億	5兆9,000億
営業利益	1兆以上	1兆500億
純利益	5,300億以上	5,400億

(注) 共通支配下の取引に係る会計方針の変更およびPPA償却額(PayPay株式会社分含む)については、2022年11月4日現在において監査未了です。2022年度通期業績予想(期初予想)は2022年5月公表値です。 | 2

2022年度 セグメント別 営業利益予想

[円]

金融セグメントを新設、訴訟に係る引当金計上で法人事業を引き下げ

	期初予想	今回予想
コンシューマ事業	4,800億	4,800億
法人事業	1,500億	1,410億
流通	235億	235億
金融	-	-190億
ヤフー・LINE事業		1,700億
再測定益	3,465億以上	2,948億
その他(再測定益除く)		-403億
全社計	1兆以上	1兆500億

(注) 共通支配下の取引に係る会計方針の変更およびPPA償却額(PayPay株式会社分含む)については、2022年11月4日現在において監査未了です。2022年度通期業績予想(期初予想)は2022年5月公表値です。 | 3

営業利益
1兆円以上
(2022年度)

調整後FCF
6,000億円水準
(2022年度)

営業利益[※]
V字回復
(2023年度)

達成に向けて順調に進捗

コンシューマ 事業



コンシューマ事業 売上高

[円]

1兆3,784億

1兆3,855億

物販等売上

2,966億

2,614億

でんき

673億

1,424億

ブロードバンド

2,025億

1,988億

モバイル

8,119億

7,829億

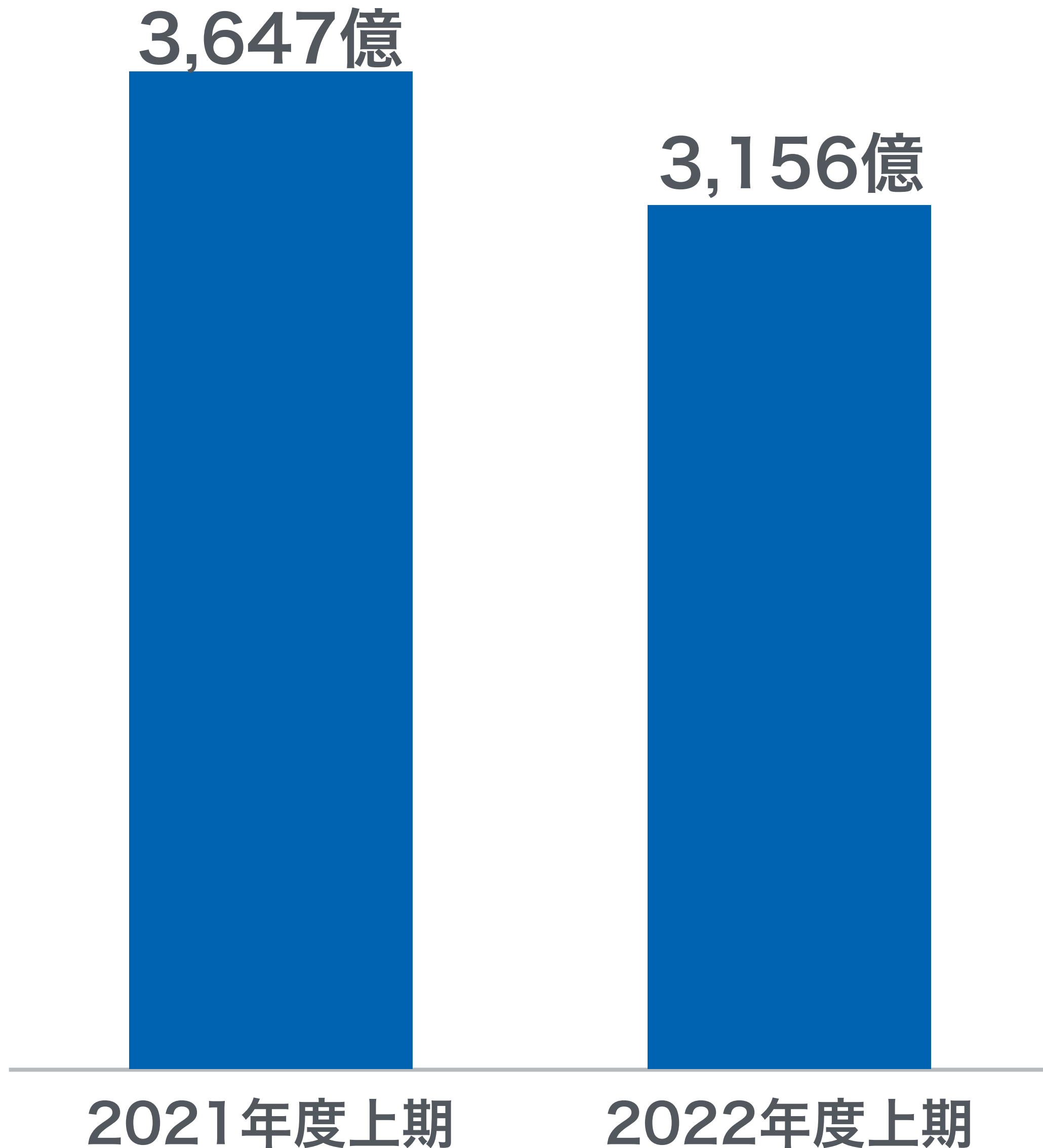
2021年度上期

2022年度上期

1%増収

コンシューマ事業 営業利益

[円]



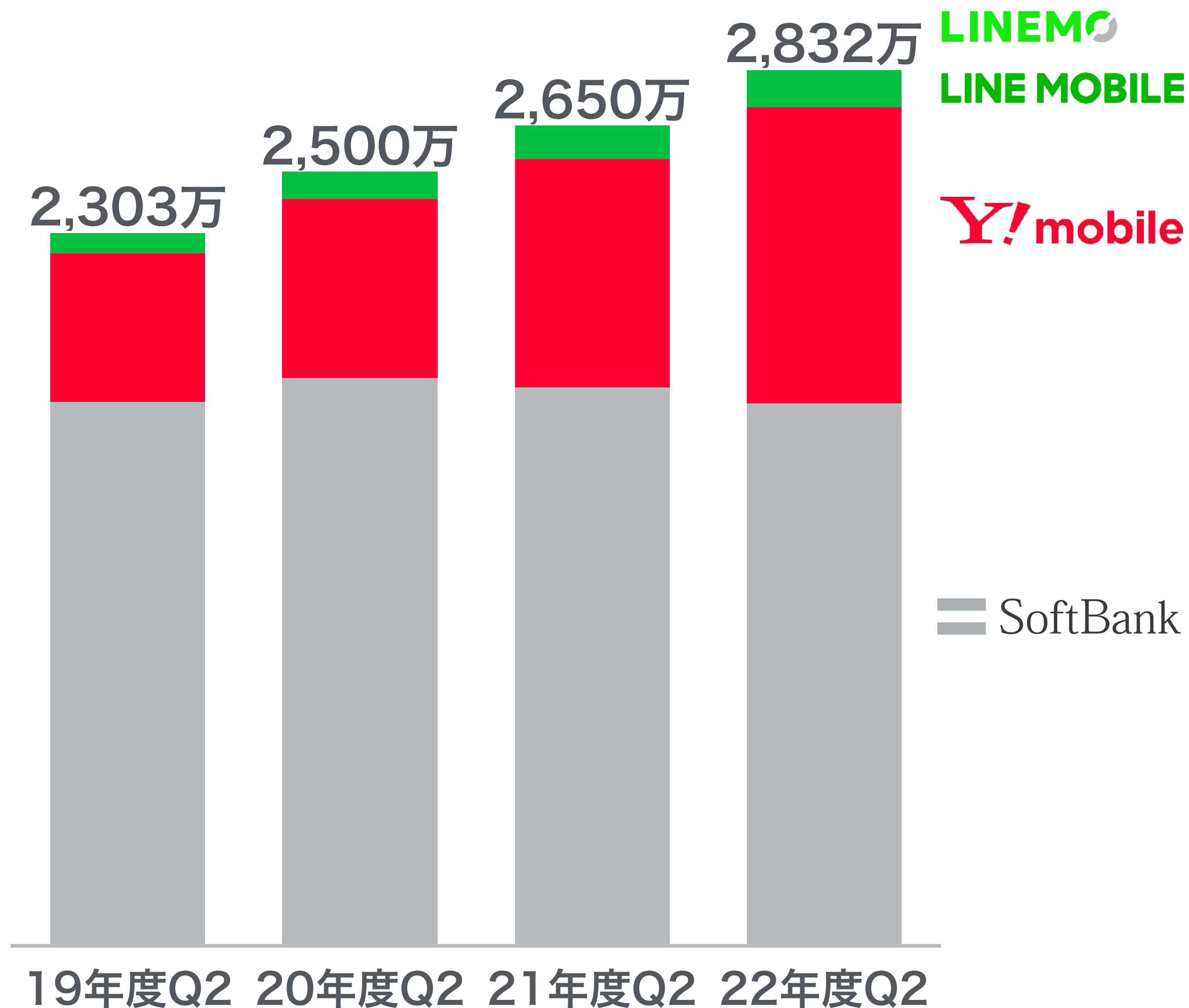
通信料値下げ影響などで

13%減益

スマートフォン 累計契約数

[件]

SoftBank



スマートフォン契約数

7%増

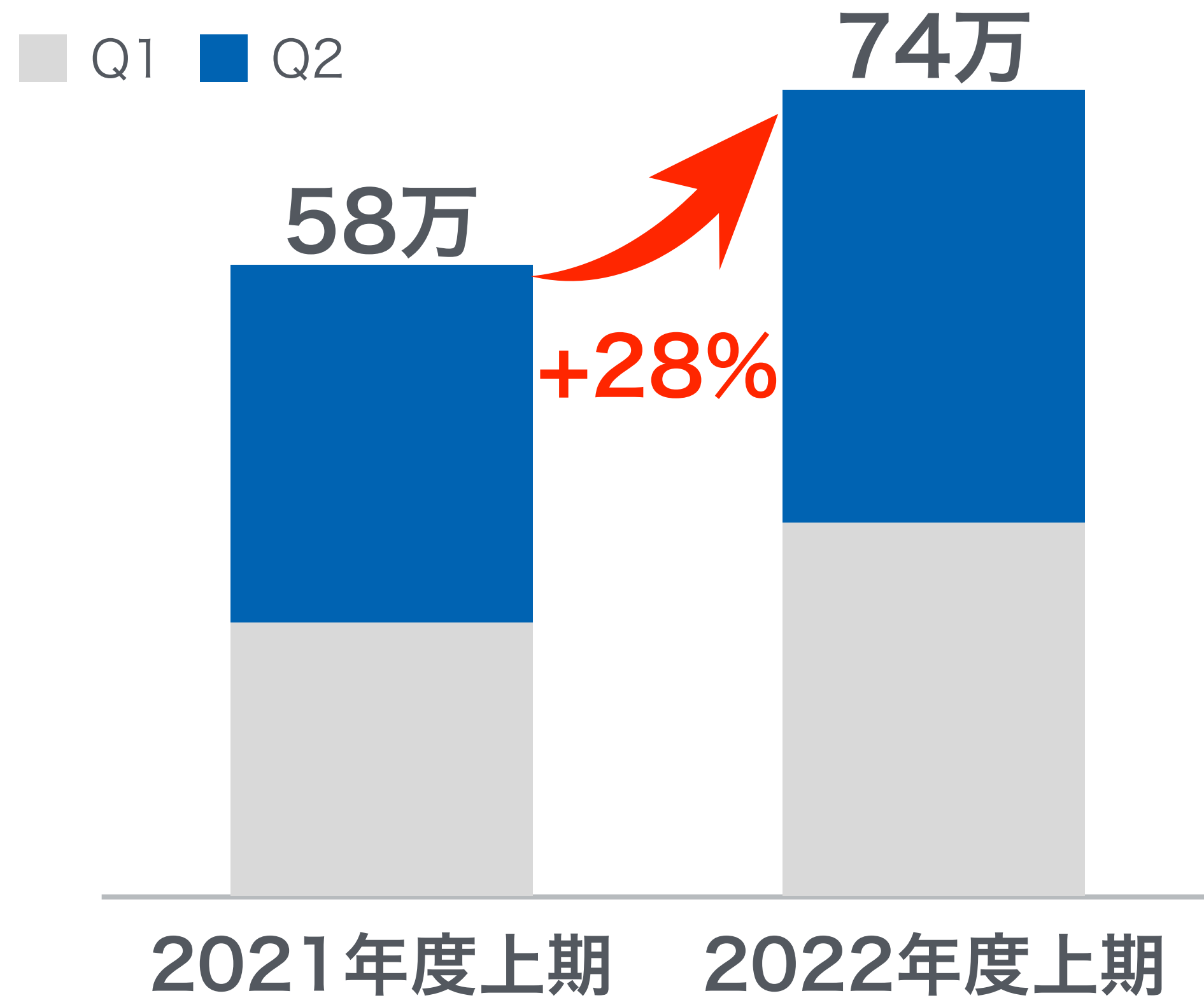
SoftBank

モバイル契約 純増数

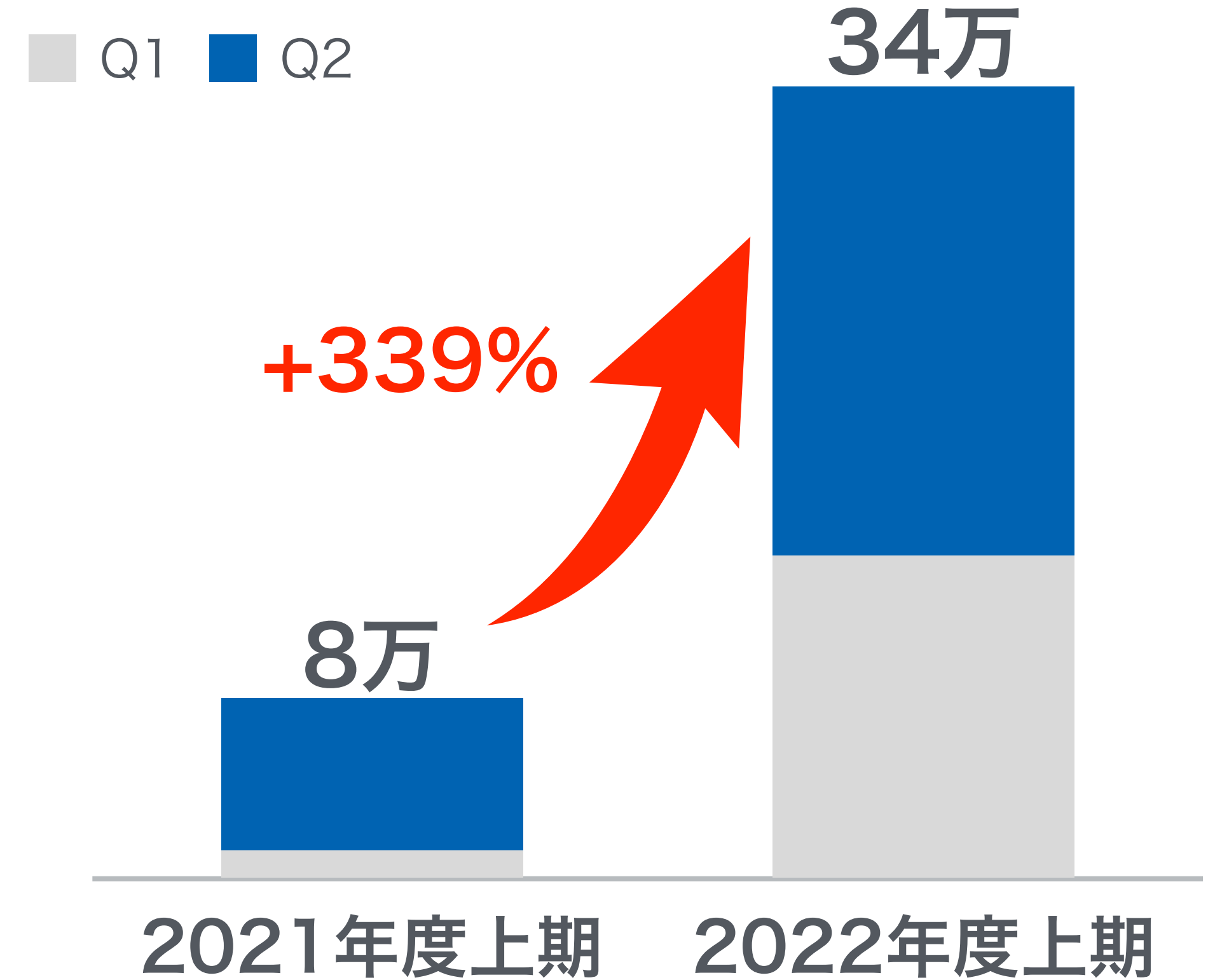
[件]

前年比で大幅に改善

スマートフォン 純増数



主要回線 純増数



(注) 純増数：該当四半期末の累計契約数－前四半期末の累計契約数、主要回線：スマートフォン、従来型携帯電話、タブレット端末、モバイルデータ通信端末、「おうちのでんわ」などの合計。法人契約を含みます。

コンシューマ事業 通期営業利益予想 進捗

[円]

(通期予想) 4,800億

3,156億

上期 進捗率 66%

2022年度

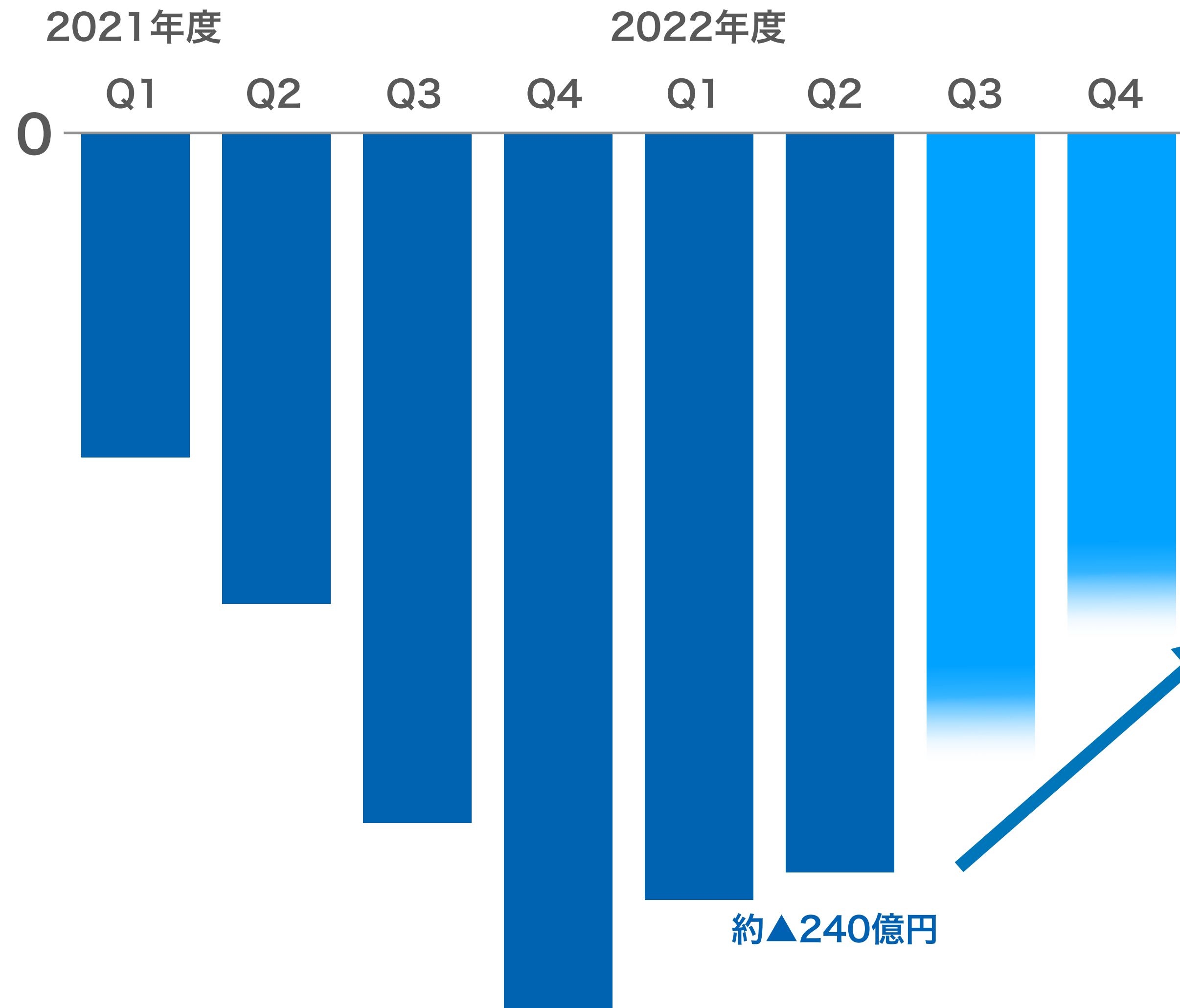
コンシューマ事業 営業利益

期初想定より 順調に推移

(参考：21年度上期 進捗率 57%)

通信料値下げ影響

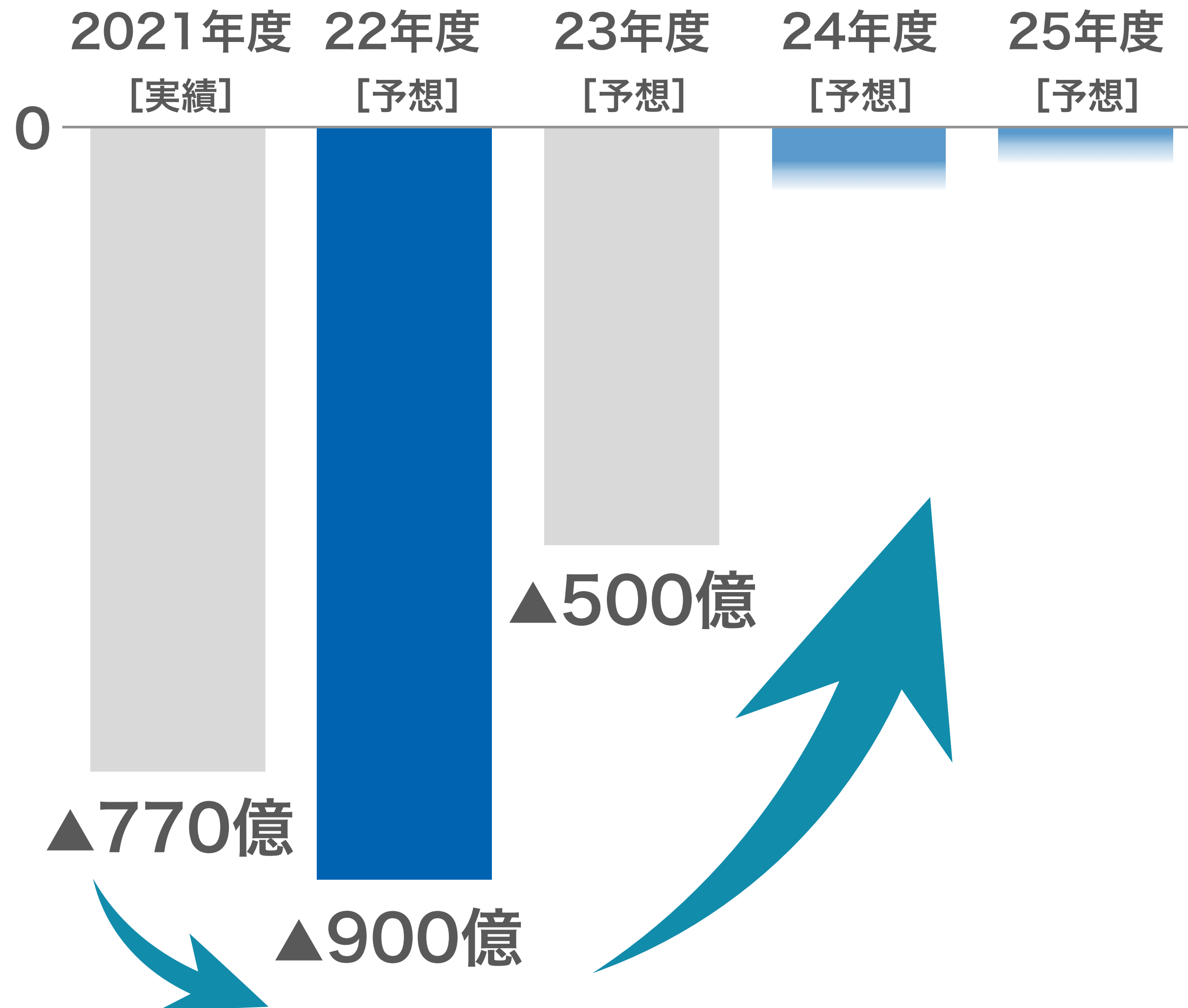
< 2021年春の通信料値下げに伴う業績影響額(前年対比) >



通信料値下げによる業績影響は
縮小へ

通信料値下げ影響

< 2021年春の通信料値下げに伴う業績影響額(前年対比) >



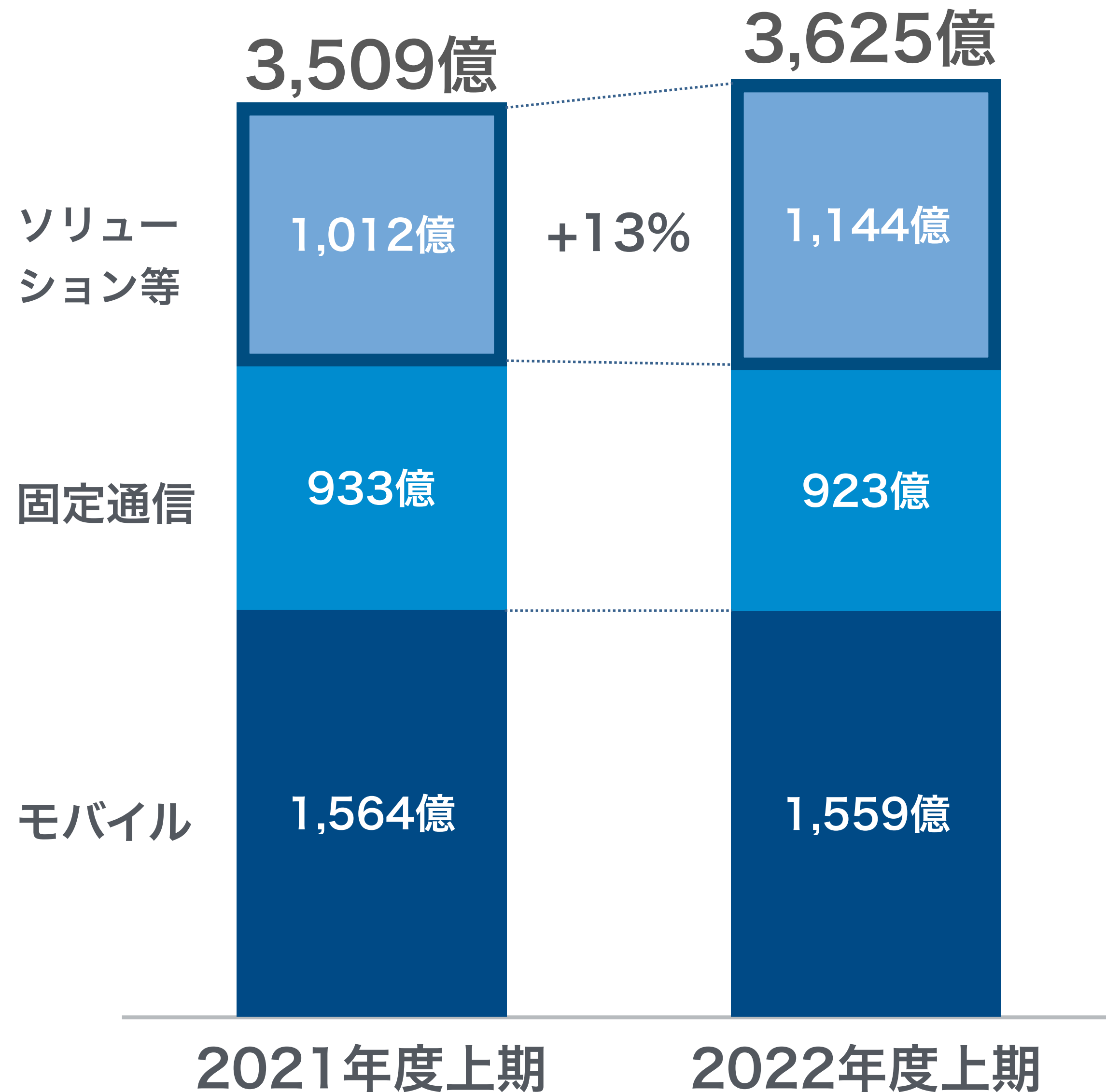
通信料値下げによる減益影響
**2022年度を底に
 大幅に縮小**

法人事業



法人事業 売上高

[円]

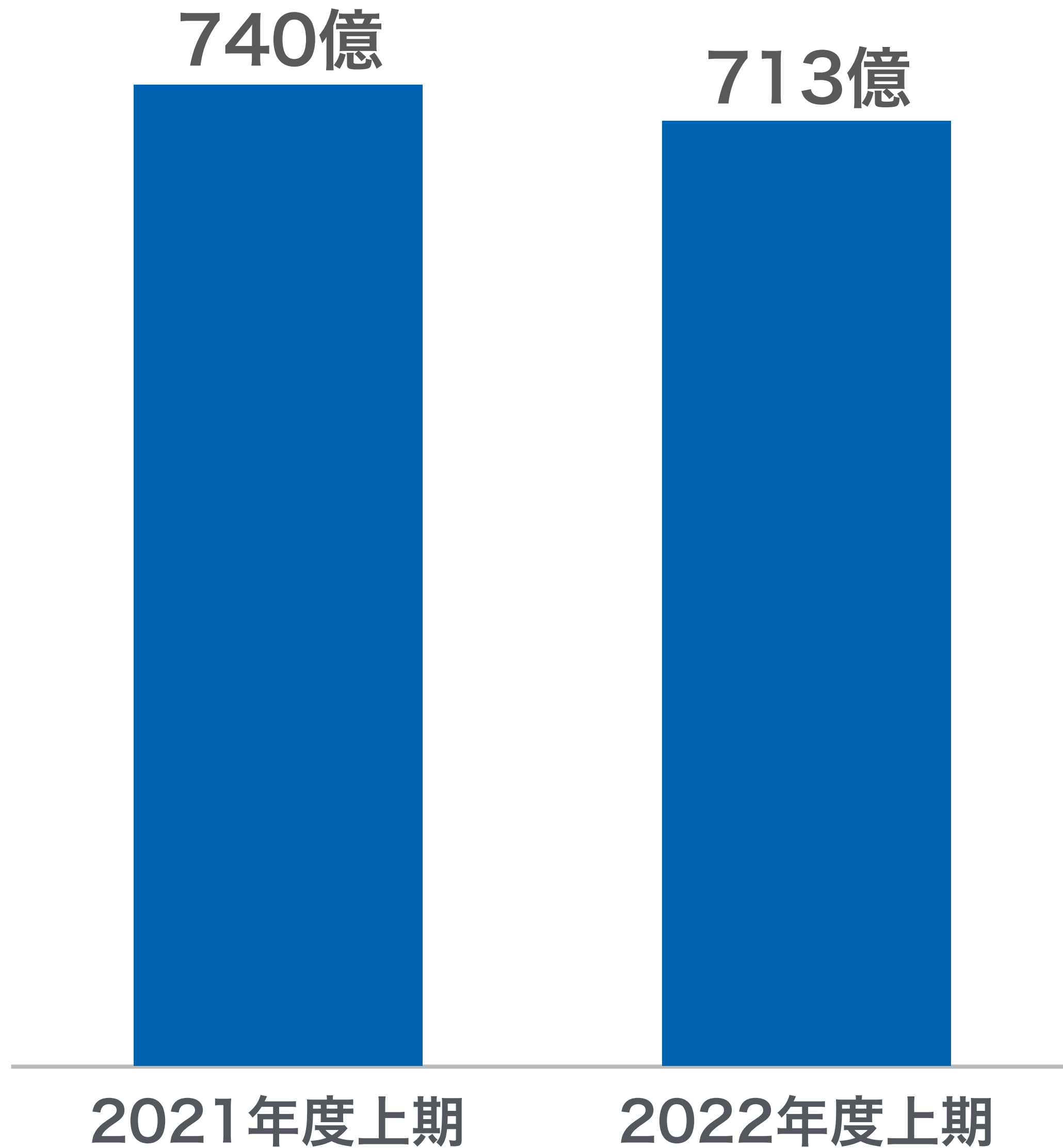


3%増収

ソリューション等が13%増

法人事業 営業利益

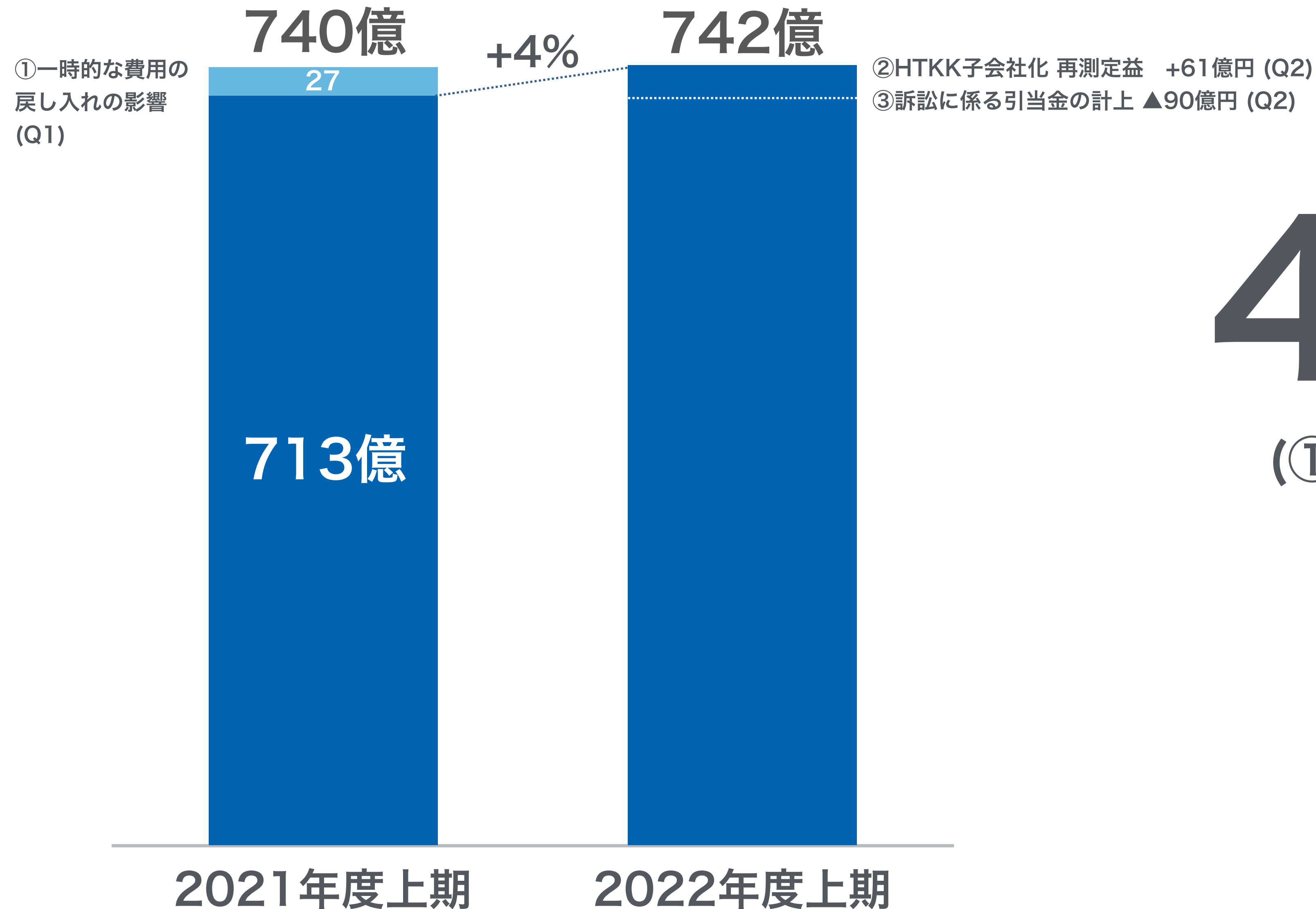
[円]



4%減益

法人事業 営業利益

[円]

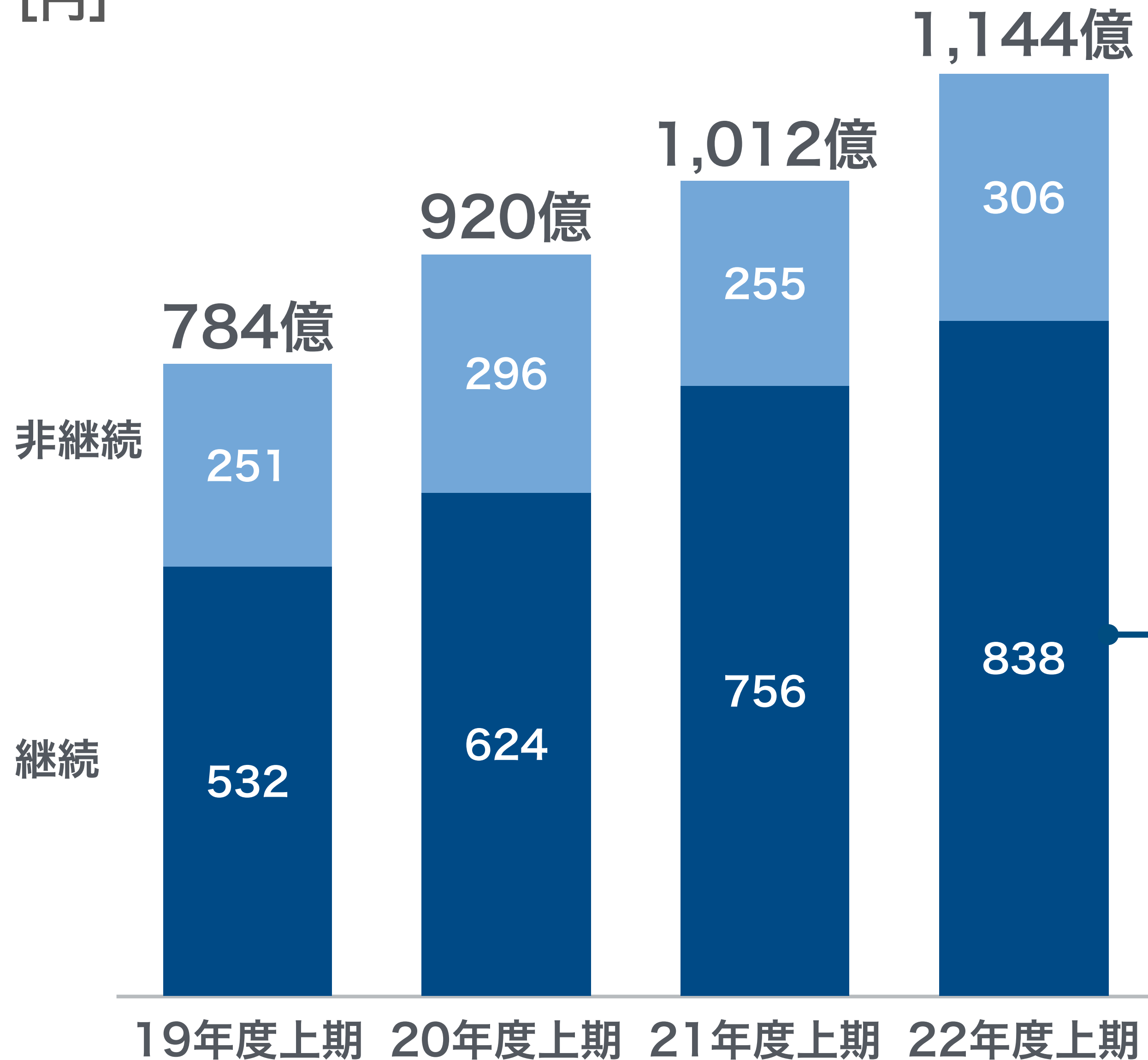


4%増益

(①～③の影響を除く)

法人事業 ソリューション等 売上高

[円]

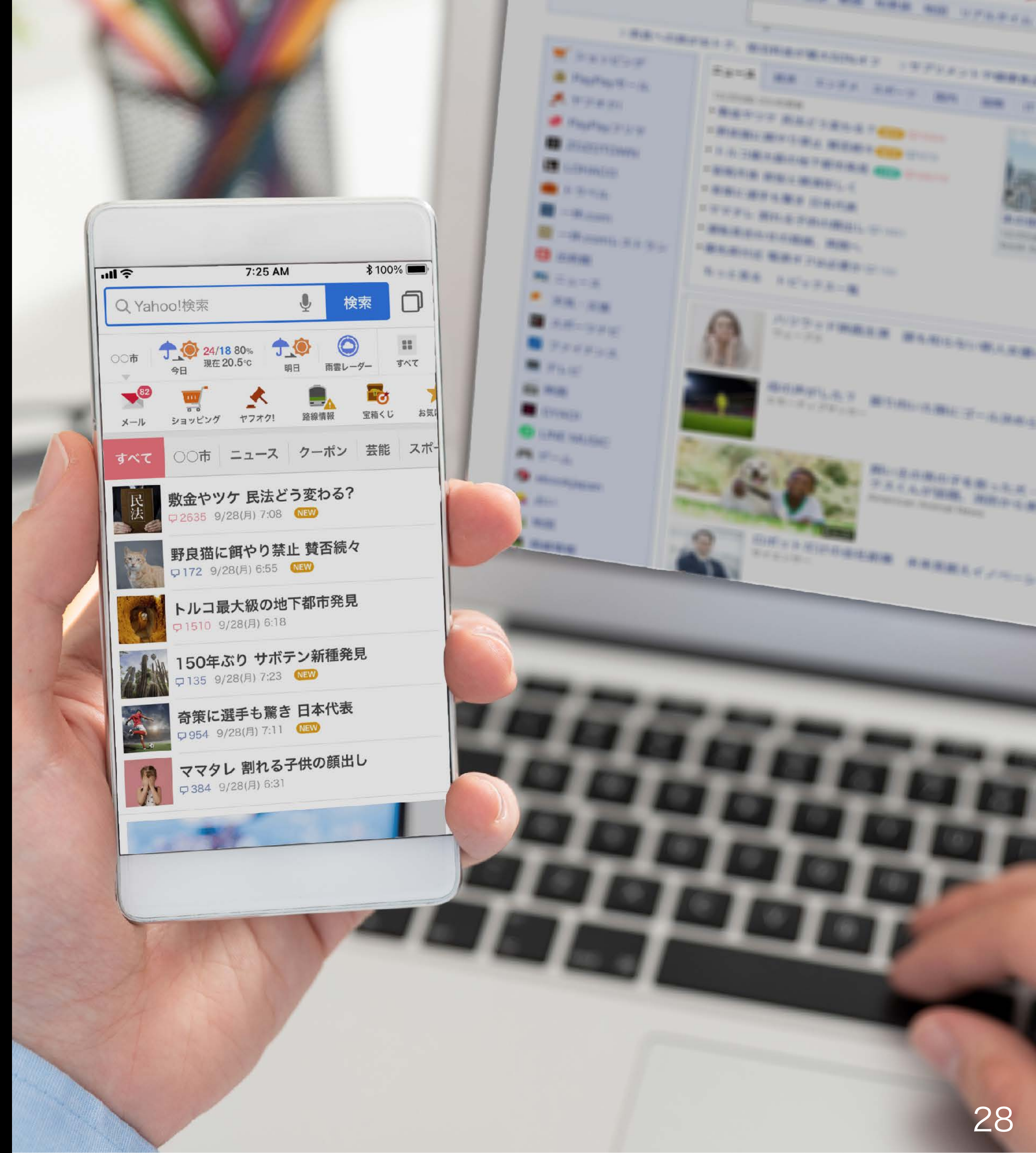


継続収入が
11%増加



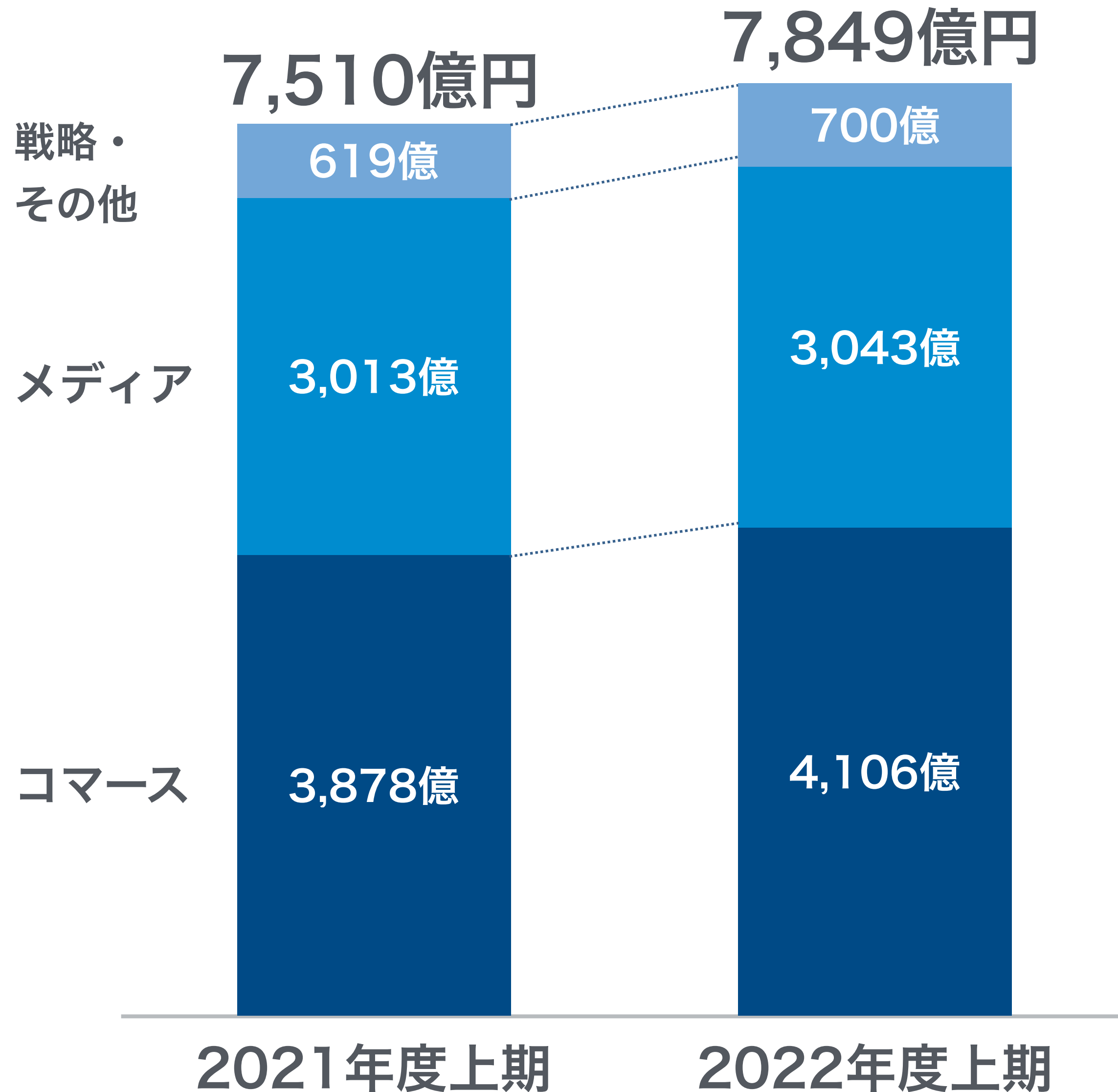
YAHOO! JAPAN

LINE



ヤフー・LINE事業 売上高

[円]



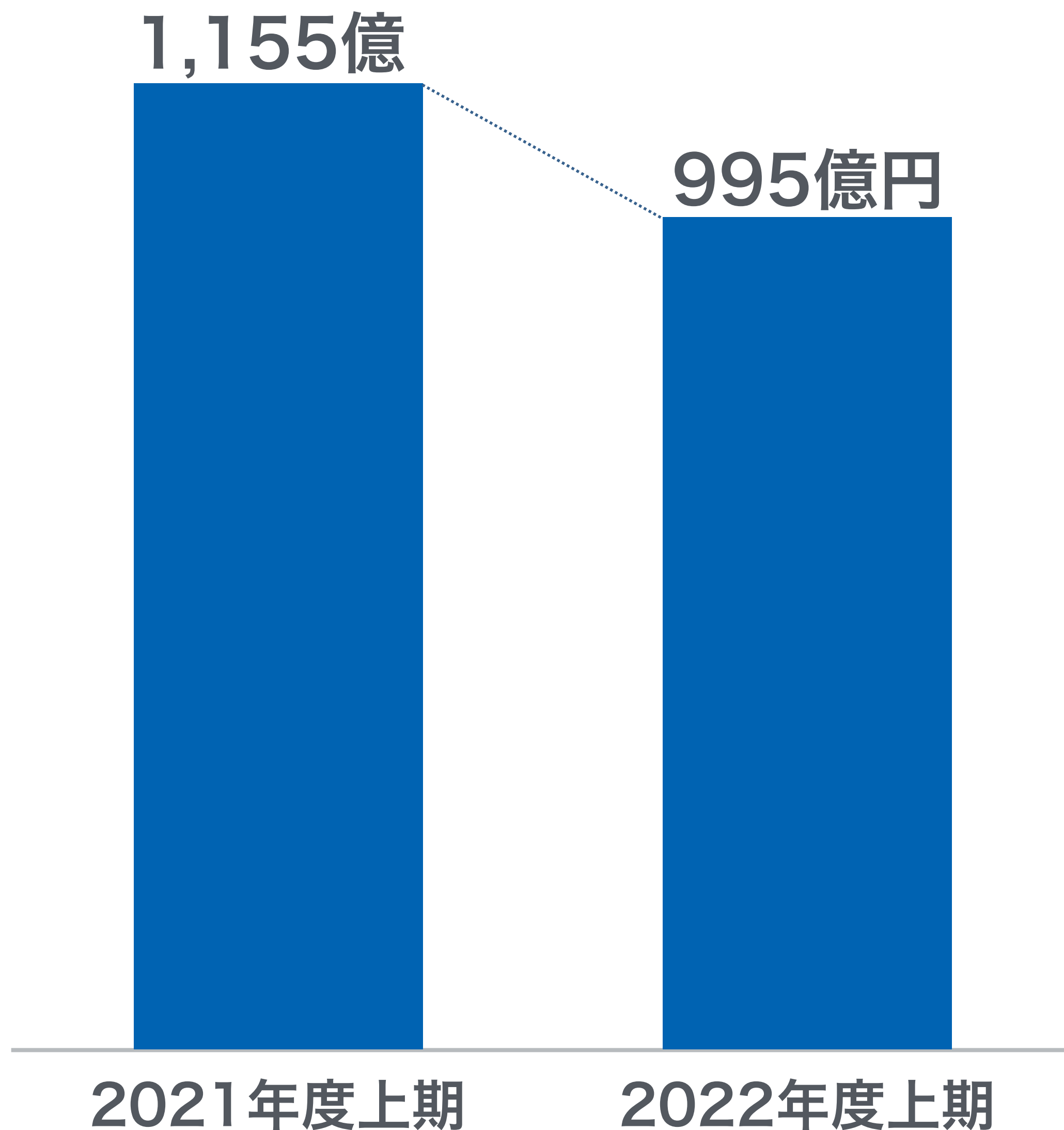
5%増収

(注) 2022年度上期において、Zホールディングスグループでは、事業の管理区分を見直し、一部のサービスについて区分を移管しました。これに伴い、2021年度上期のヤフー・LINE事業の売上高のうち、「メディア」および「戦略・その他」の内訳を修正再表示しています。

ヤフー・LINE事業 営業利益

[円]

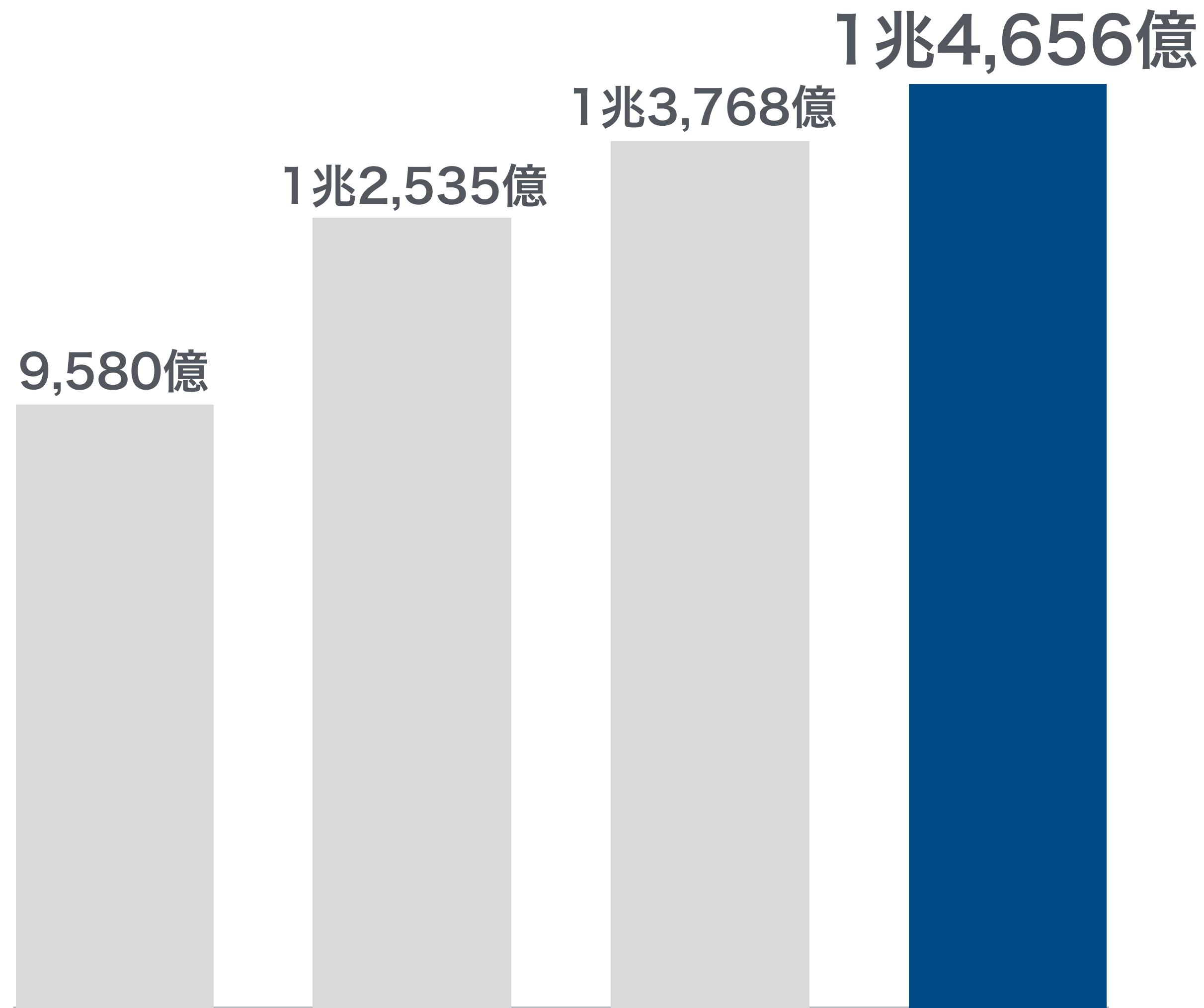
SoftBank



14%減益

ヤフー・LINE事業 物販eコマース取扱高（国内）

[円]



物販eコマース取扱高

6%増

19年度上期 20年度上期 21年度上期 22年度上期

(注) 国内のショッピング事業取扱高、リユース事業取扱高、その他(物販)取扱高、アスクル株式会社におけるBtoB事業インターネット経由売上収益（20日締め）の合計値
Zホールディングス株式会社の開示基準に従い、億円単位で端数の切り捨てを行っています。

金融事業

(2022年度Q3より新設)



金融事業を構成する企業

当社の直接投資先を中心に構成



^{*1} Bホールディングス(株)持分、ソフトバンク(株)直接持分、Zホールディングス(株)直接持分の合計(2022年10月1日時点)
^{*2} Paytm新株予約権行使後

^{*3} ソフトバンク(株)持分(50.1%)およびZホールディングス(株)持分(0.9%)の合計

(注) SBペイメントサービス(株)およびPayPay証券(株)の当社議決権所有割合は2022年3月末時点

金融事業を構成する企業

当社の直接投資先を中心に構成

金融事業

 PayPay  PayPay カード

当社グループ議決権所有割合：69.8%
ソフトバンク(株)経済持分：43.6%



決済代行サービス

 SB Payment Service

ソフトバンク(株) 議決権所有割合：100%



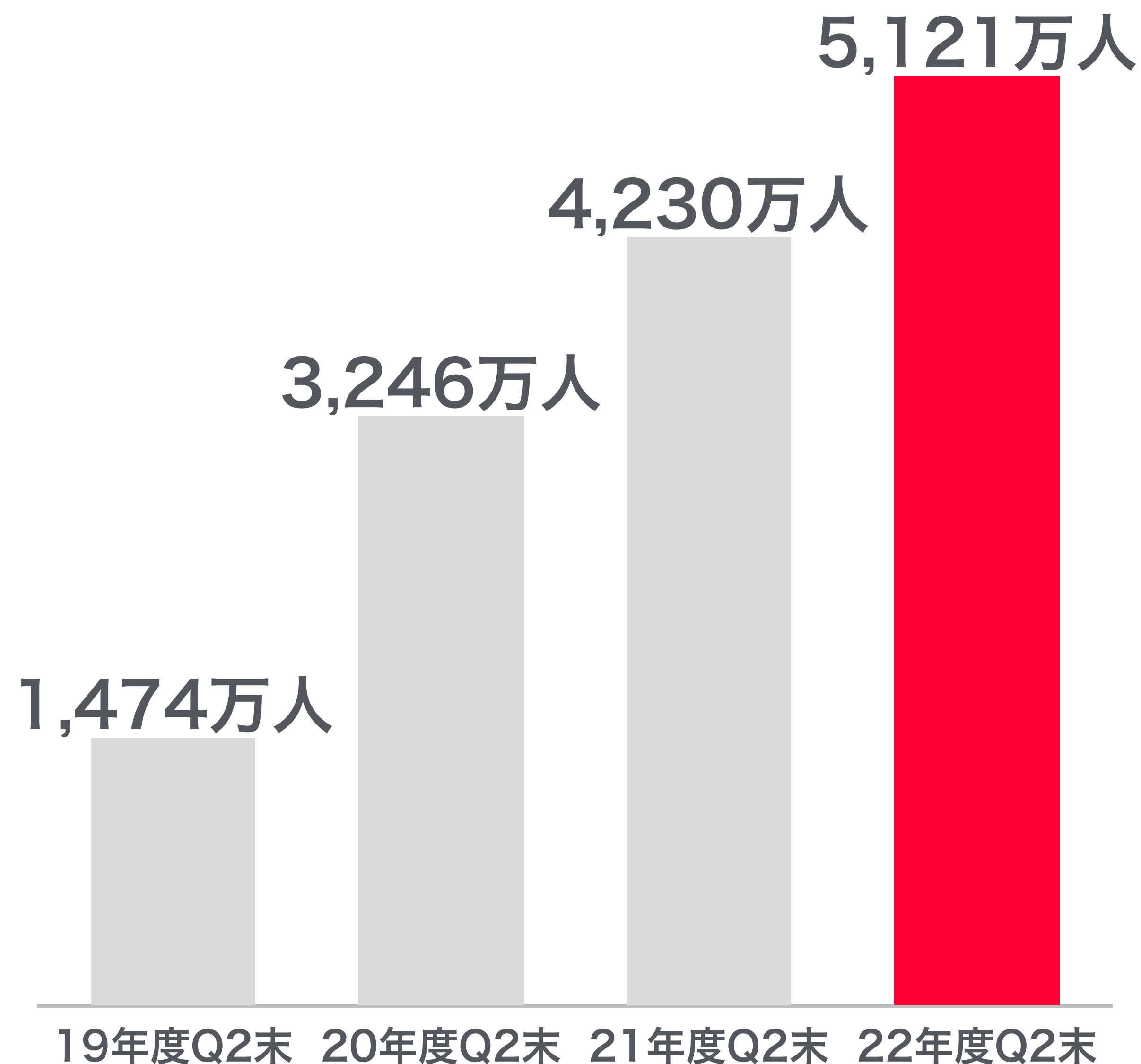
スマホ証券

 PayPay 証券

当社グループ議決権所有割合：51%

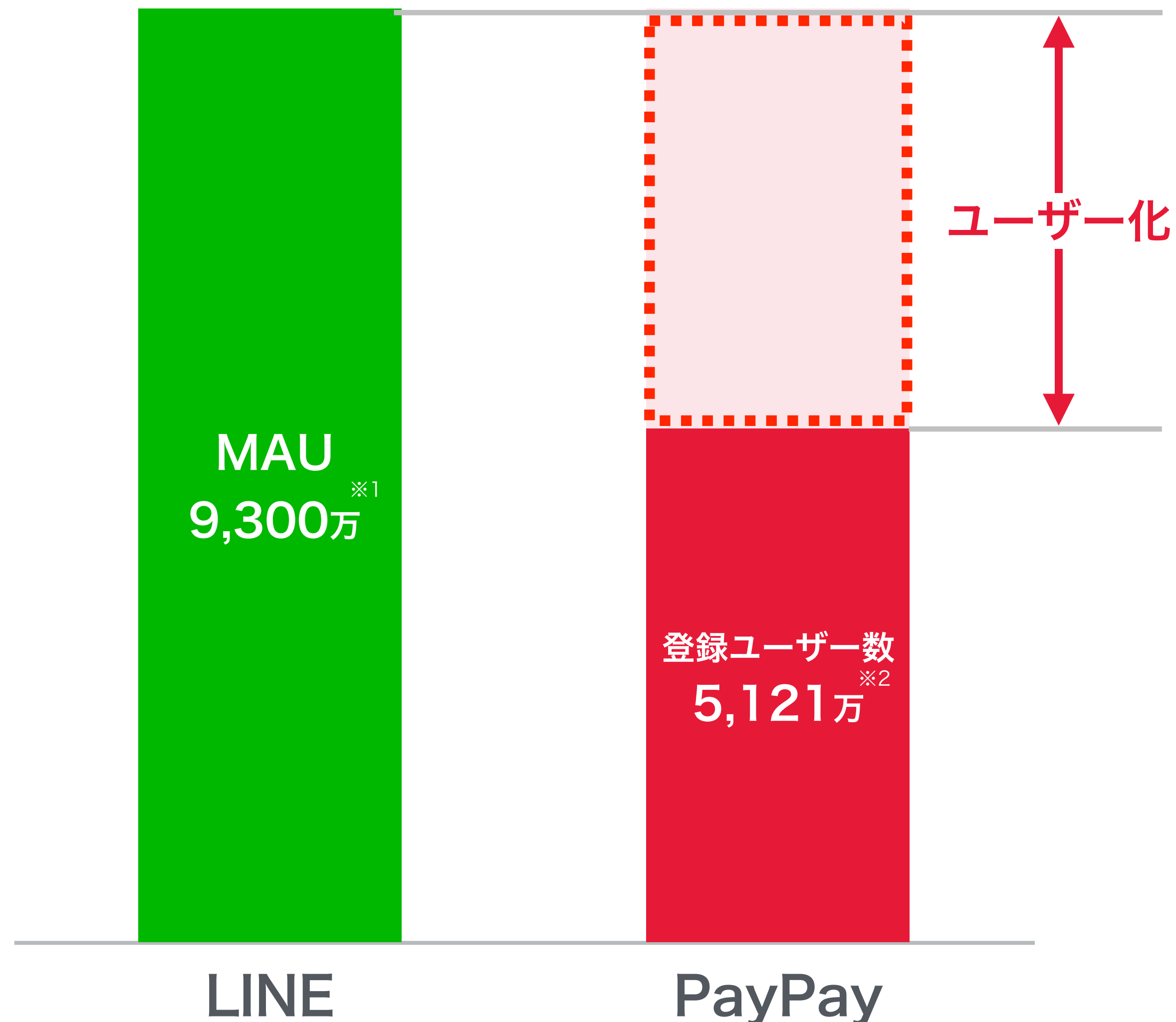


「PayPay」登録ユーザー数



登録ユーザー数
5,121万人
前年同期比 21%増

「PayPay」登録ユーザー数 拡大戦略



LINEとの連携で
拡大を加速



LINE

「PayPay」決済回数・決済取扱高

決済回数

前年同期比 43%増

23.8億回

16.6億回

9.1億回

1.4億回

19年度上期 20年度上期 21年度上期 22年度上期

決済取扱高

前年同期比 43%増

3.5兆円

2.4兆円

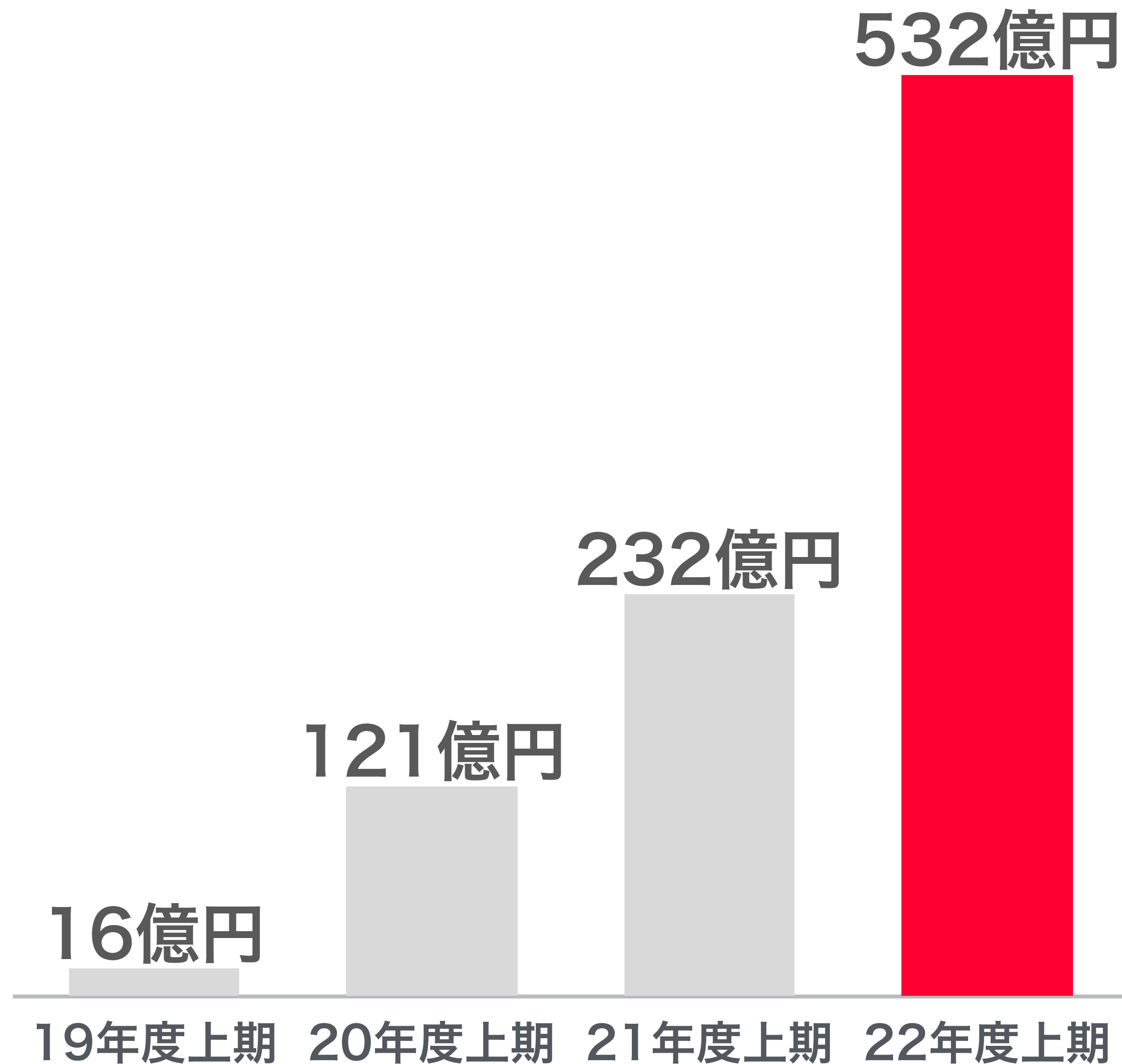
1.4兆円

0.2兆円

19年度上期 20年度上期 21年度上期 22年度上期

(出所) PayPay株式会社
(注) ユーザー間での「PayPay残高」の「送る・受け取る」機能の利用は含みません。
2021年度Q4以降は「Alipay」、「LINE Pay」等経由の決済を含みます。2022年2月より提供開始した「PayPayあと払い」による決済を含みます。
決済取扱高において、Zホールディングス株式会社の開示基準に従い、1,000億円単位で端数の切り捨てを行っています。

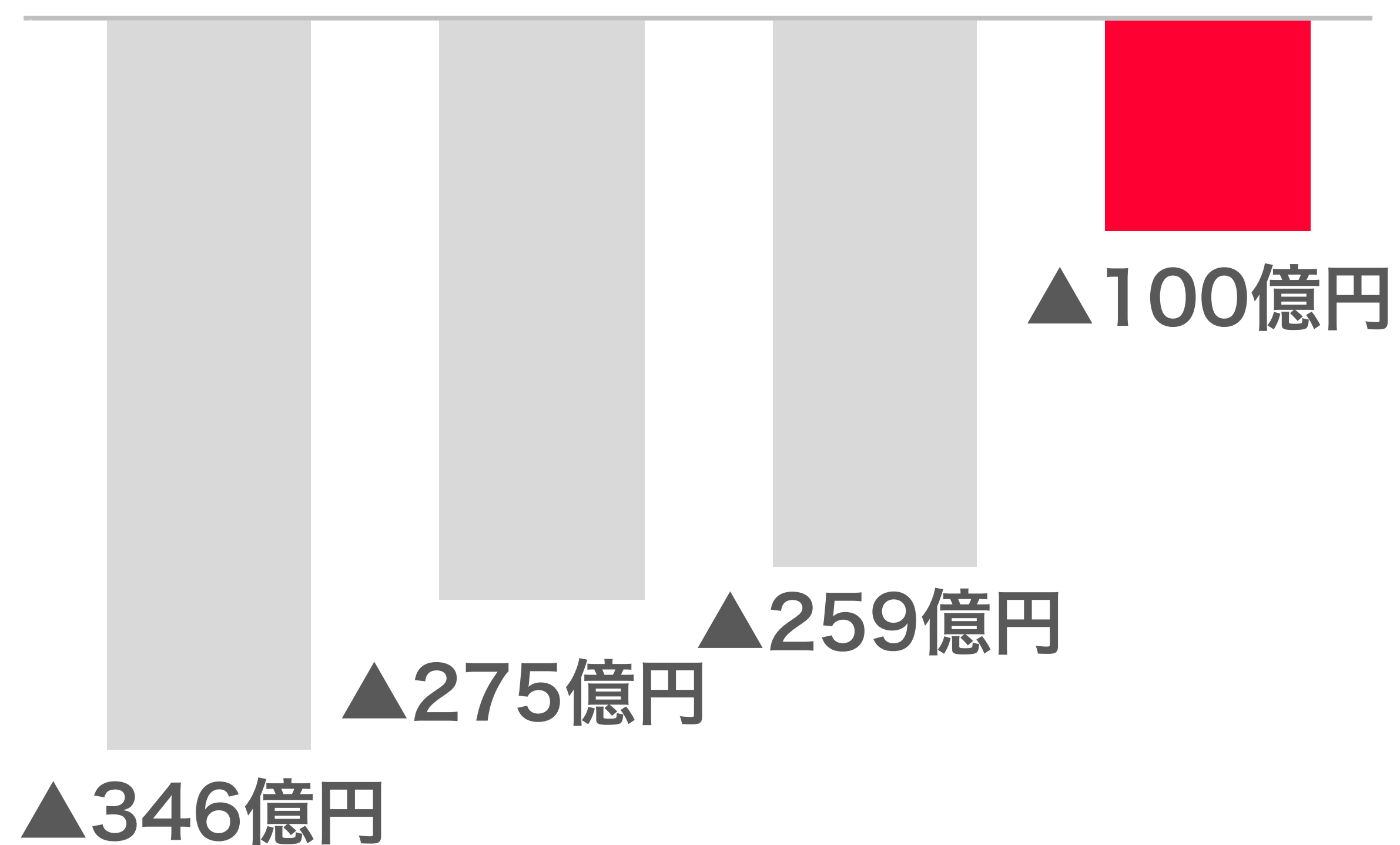
「PayPay」売上高



売上高 (半期)
532億円
前年同期比 129%増

(出所) PayPay株式会社
(注) PayPay株式会社単体の売上高。FY21Q4において、キャッシュバック等に係る会計処理の変更を実施。キャッシュバック等が売上を上回る場合の超過分の会計処理を、費用計上から売上控除に変更。FY21上期の数値は、FY21Q1に当該会計処理変更を行ったと仮定して算出。FY22の売上高は未監査。

「PayPay」 EBITDA



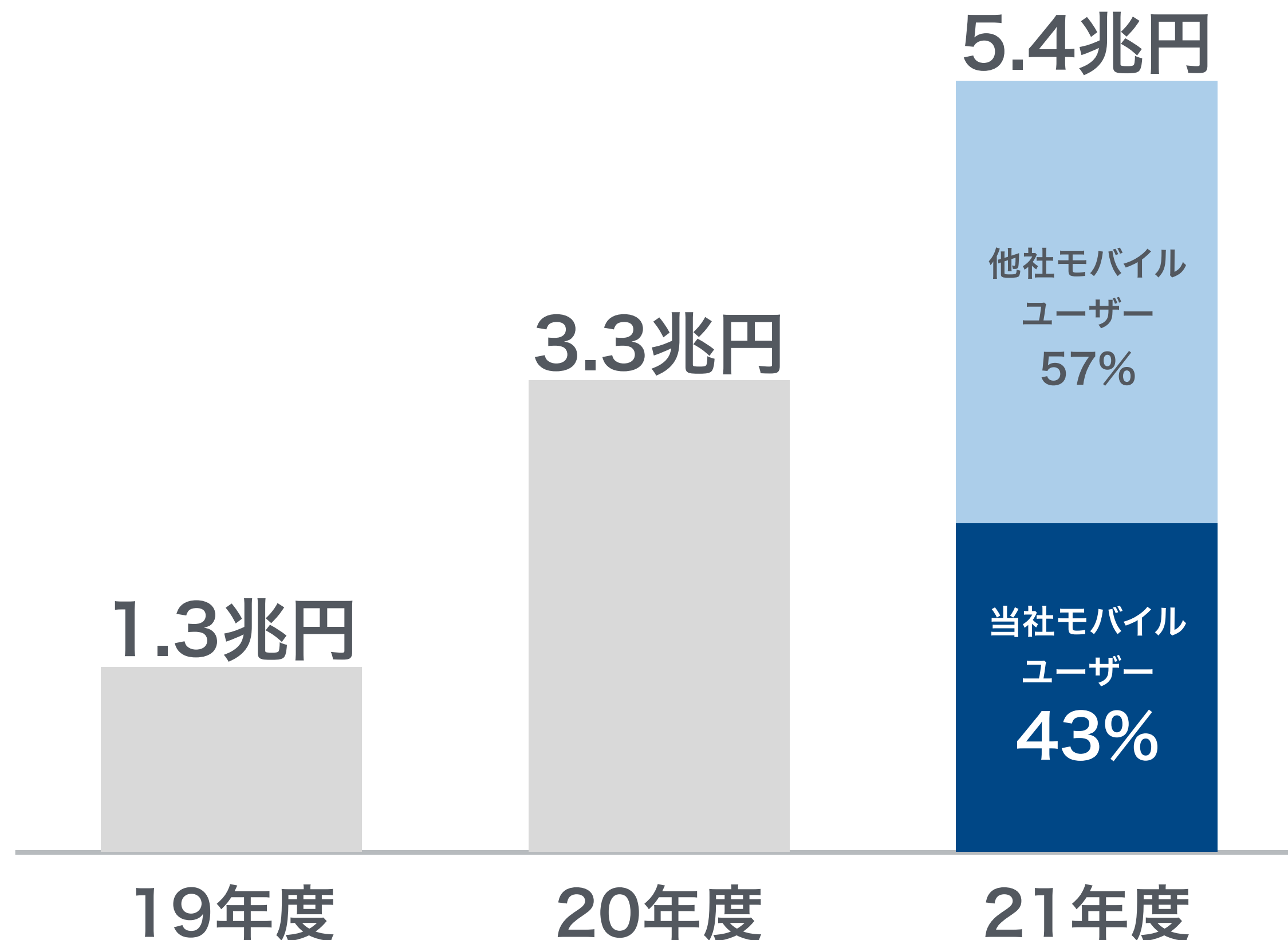
着実に改善

19年度上期 20年度上期 21年度上期 22年度上期

PayPayの成長加速



決済取扱高 (GMV)



当社モバイル顧客基盤を 活用し成長を加速

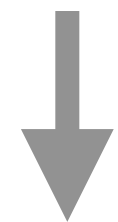


(“ソフトバンク”ユーザー限定クーポン)

PayPayカード(株)との統合



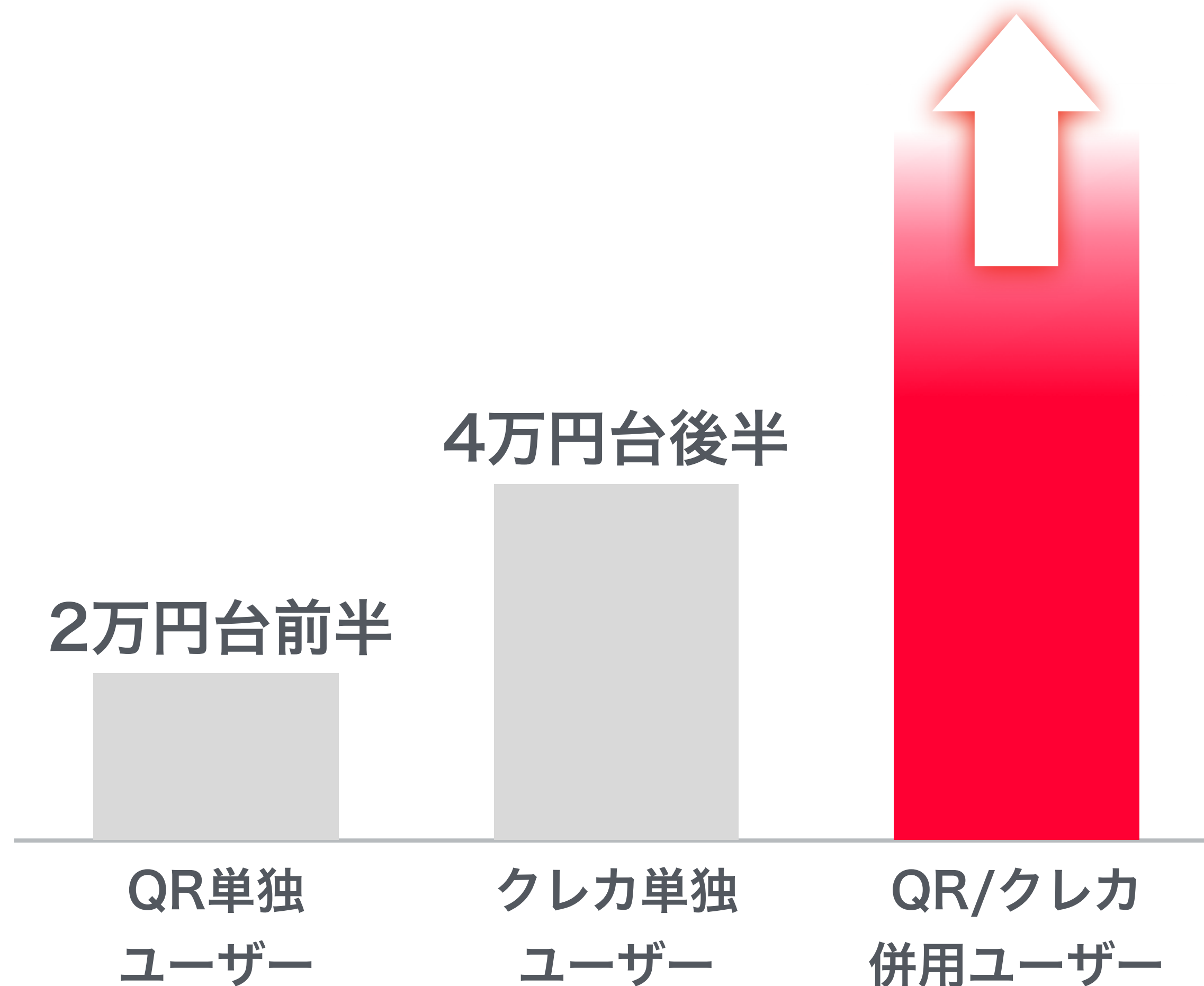
100%



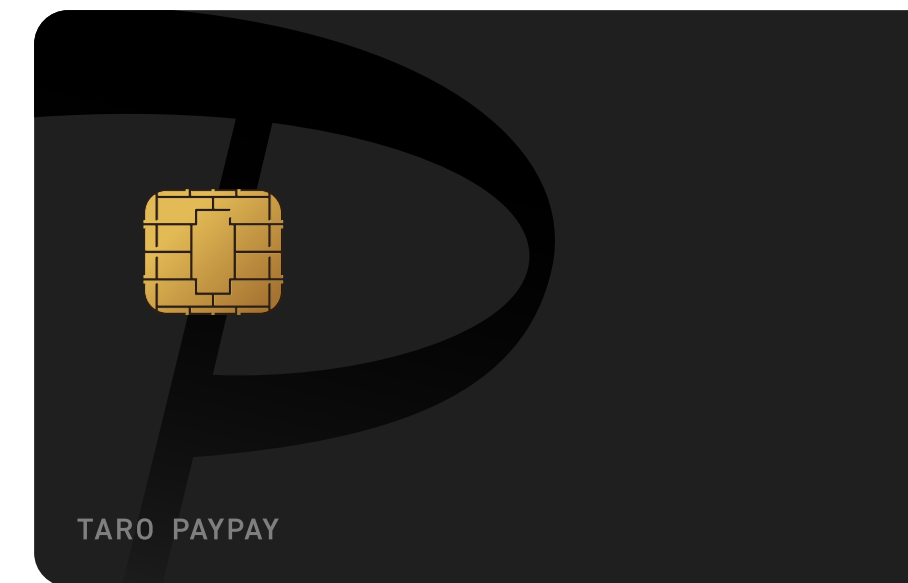
ヤフー(株)からの
クレジットカード事業の
移管が完了
(2022年10月1日)

PayPayカード(株)との統合の狙い

1人当たり 月間決済金額



QR・クレカ決済の併用促進で 月間決済金額を最大化



(注) QR単独ユーザー、クレカ単独ユーザーの月間決済金額はFY21実績 42

金融事業を構成する企業

当社の直接投資先を中心に構成

金融事業

 PayPay  PayPay カード

当社グループ議決権所有割合：69.8%
ソフトバンク(株)経済持分：43.6%



決済代行サービス

 SB Payment Service

ソフトバンク(株) 議決権所有割合：100%



スマホ証券

 PayPay 証券

当社グループ議決権所有割合：51%



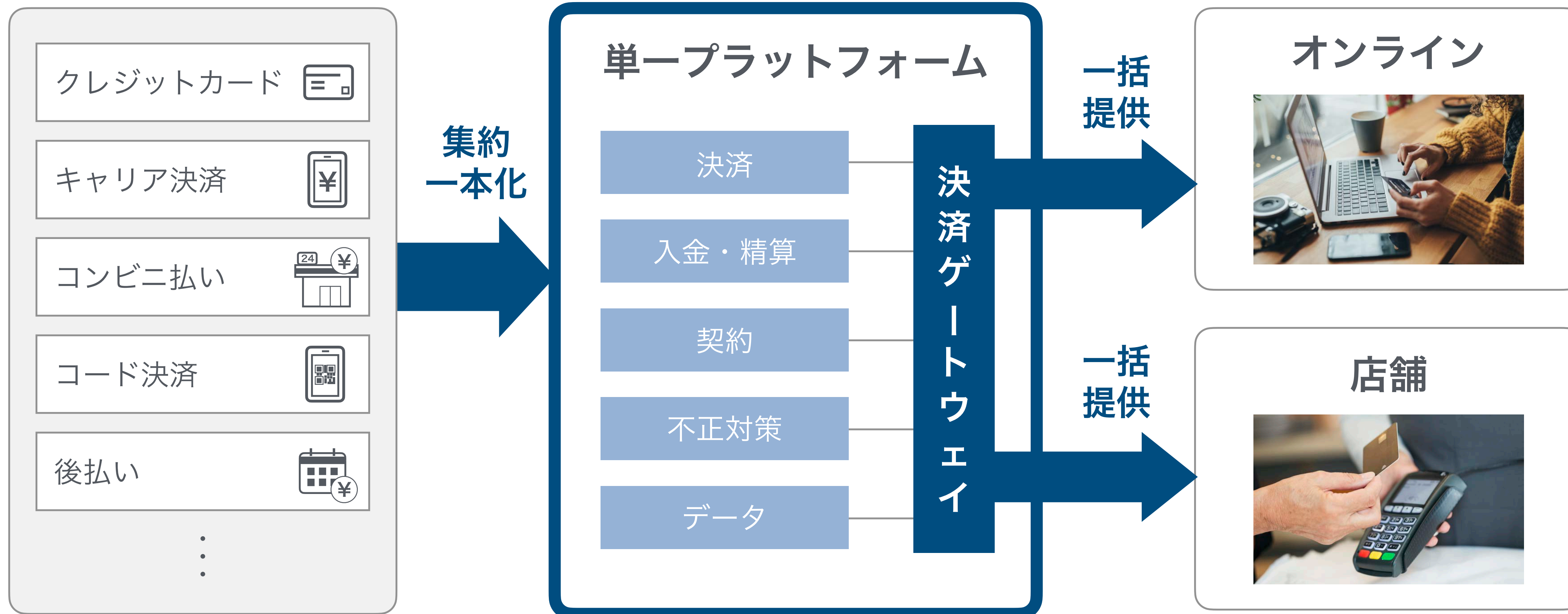
「SBペイメントサービス」 事業概要

決済機能を一括で提供する大手決済代行サービス

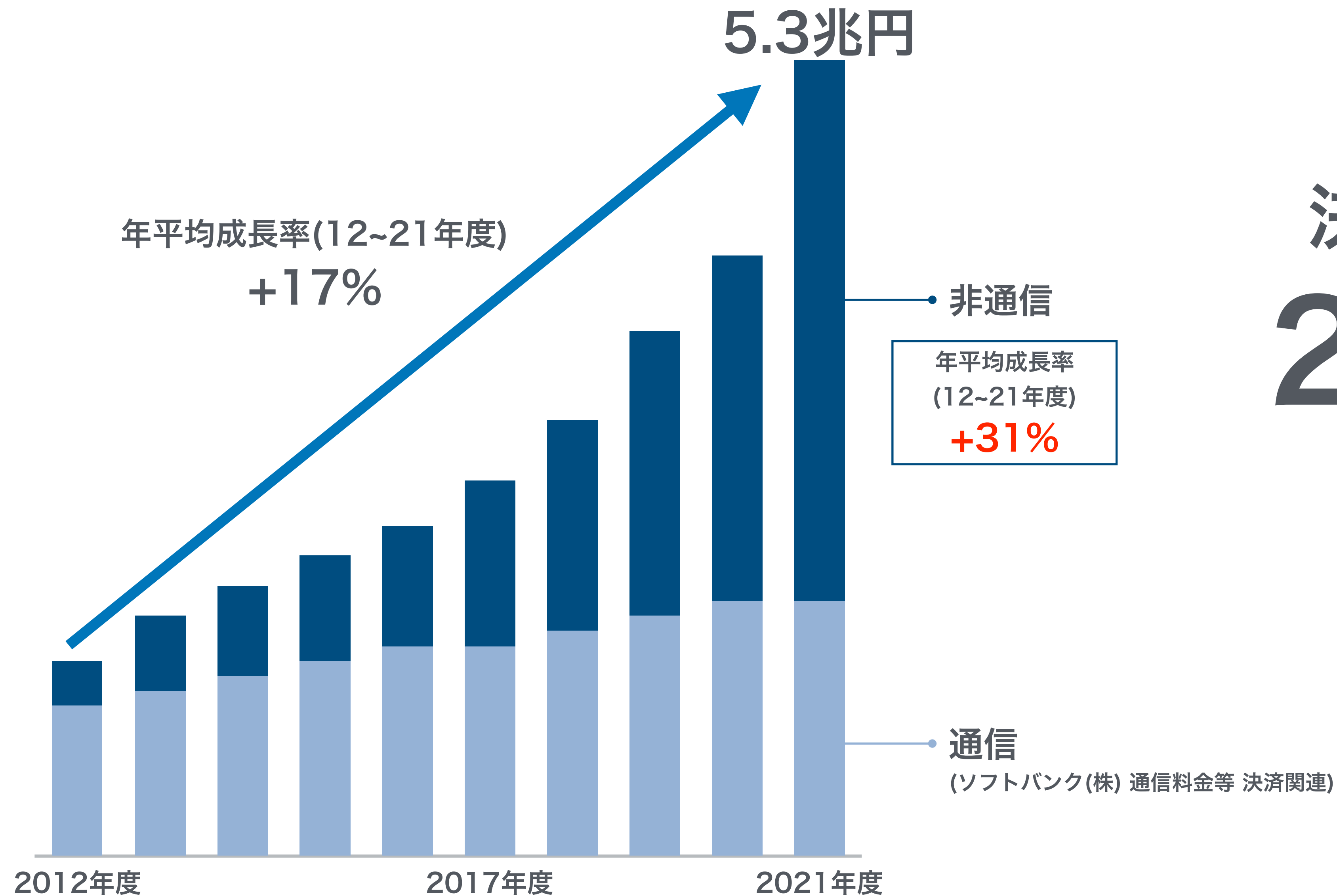
SB Payment Service

決済サービス

加盟店



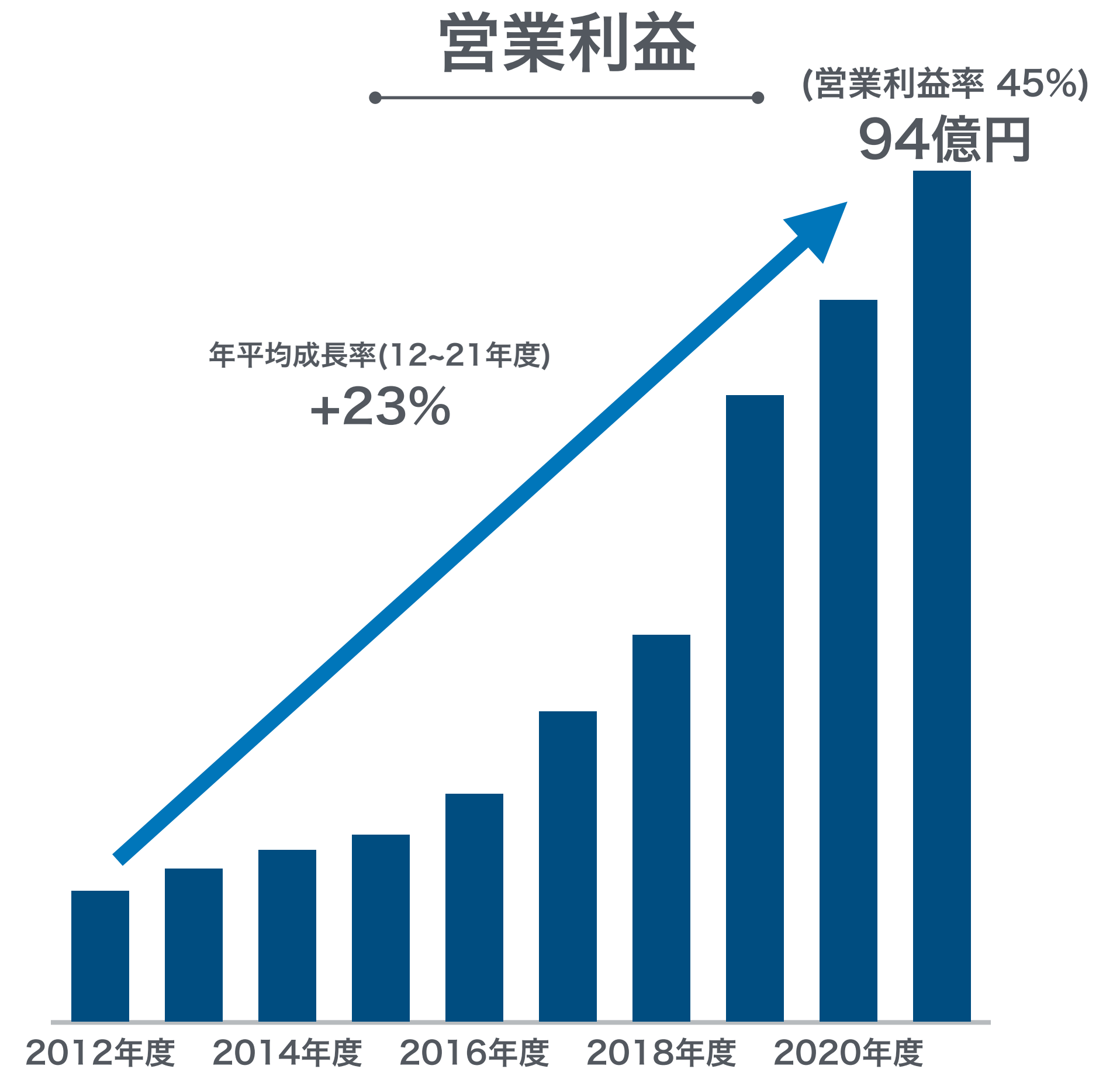
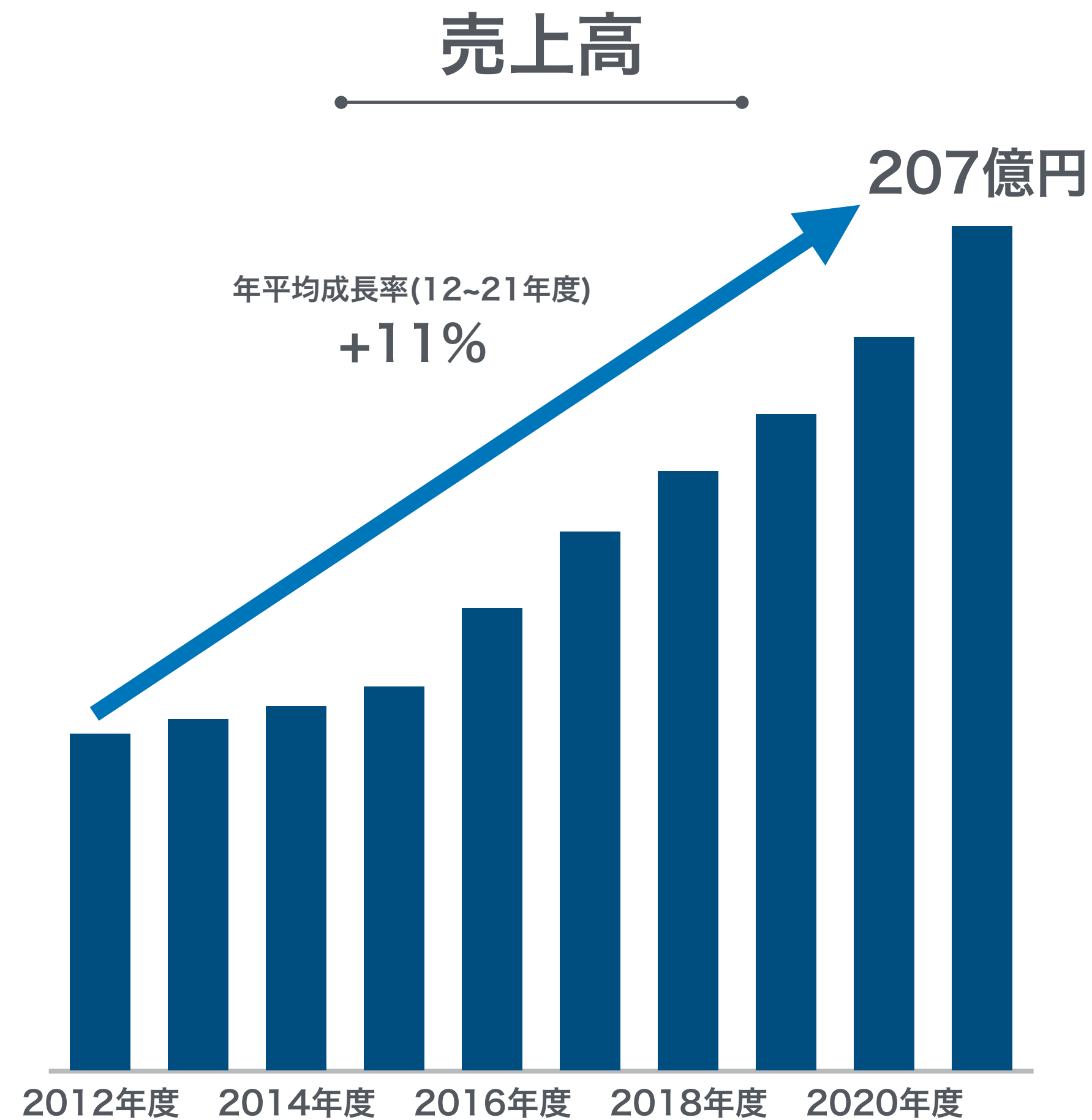
「SBペイメントサービス」 決済取扱高(GMV) SB Payment Service



決済取扱高が
2桁成長

「SBペイメントサービス」業績

売上高・営業利益が2桁成長、高水準の利益率



「SBペイメントサービス」 成長戦略

加盟店数の増加

グループアセット活用等



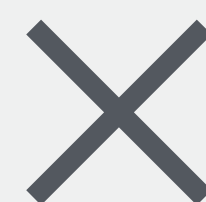
SoftBank
(法人事業)

SB C&S
(流通事業)

加盟店数
387 万カ所以上

大企業との取引
94%

販売パートナー数
1.2 万



1加盟店当たりの取扱高の増加

自社ソリューションの強化等

マルチ決済端末(PayCAS)の普及

不正検知AIソリューション

決済取扱高の最大化

グループシナジーの創出

マルチ決済端末の共同展開

 PayPay  SB Payment Service

 SoftBank  SB C&S

複数の決済手段を一台で提供

PayCAS



QRコード

クレジット
カード

電子マネー

グループシナジー

決済の機会を
グループ内へ取り込み
(決済取扱高の最大化)

中堅・中小企業市場の
共同開拓

金融事業を構成する企業

当社の直接投資先を中心に構成

金融事業

 PayPay  PayPay カード

当社グループ議決権所有割合：69.8%
ソフトバンク(株)経済持分：43.6%



決済代行サービス

 SB Payment Service

ソフトバンク(株) 議決権所有割合：100%



スマホ証券

 PayPay 証券

当社グループ議決権所有割合：51%



「PayPay証券」 事業概要

PayPayアプリと連携した資産運用サービスを提供



ポイント運用

PayPayポイントでの
投資体験を提供



PayPay資産運用

PayPayミニアプリ上で
資産運用コースを提供



PayPay証券アプリ

専用スマホアプリで
より充実した投資機会を提供



「PayPay証券」 成長戦略

PayPayの顧客基盤を活用し効率的にユーザーを拡大

投資体験

より充実した
投資機会

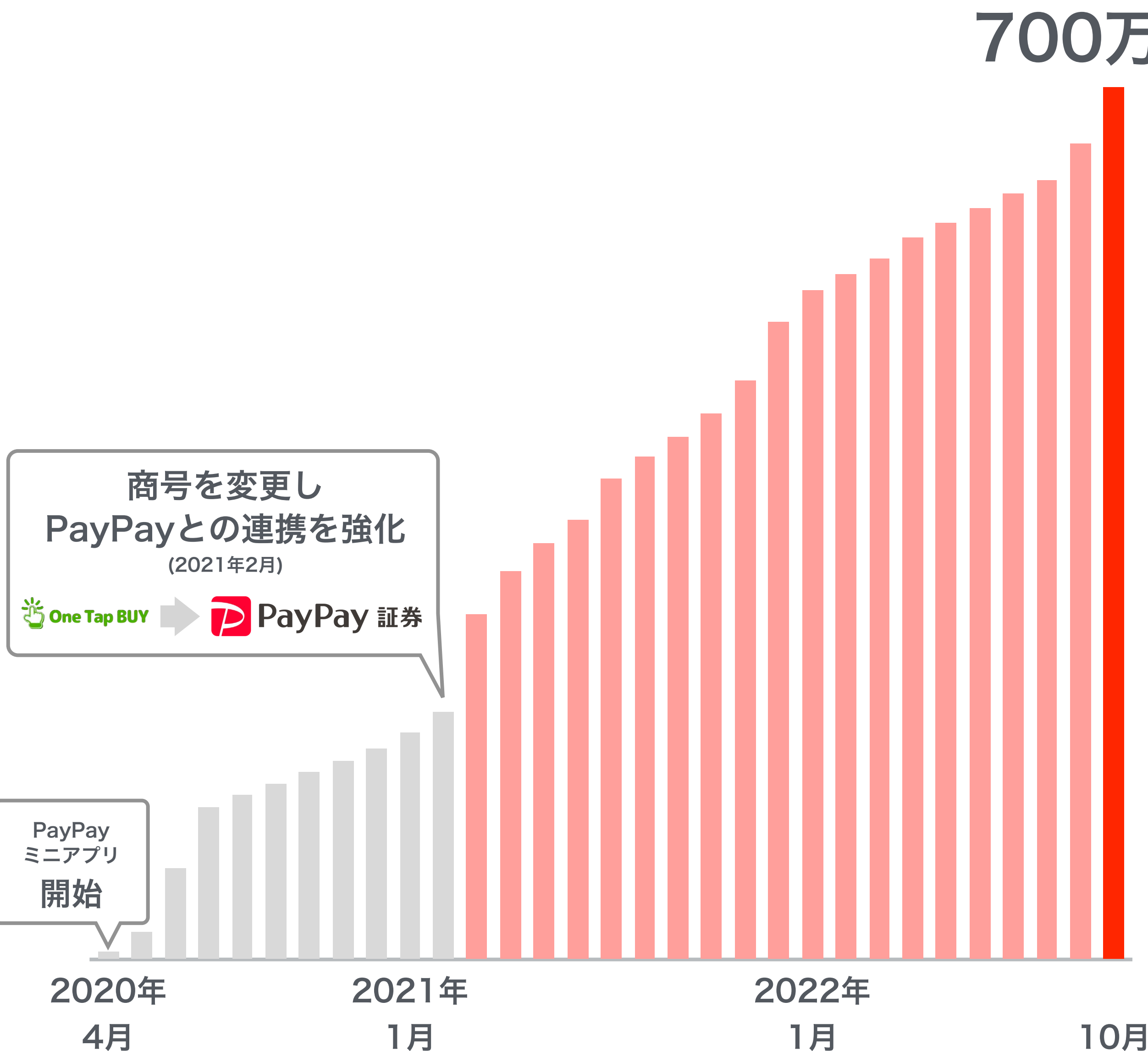


「PayPay証券」ポイント運用 累計運用者数



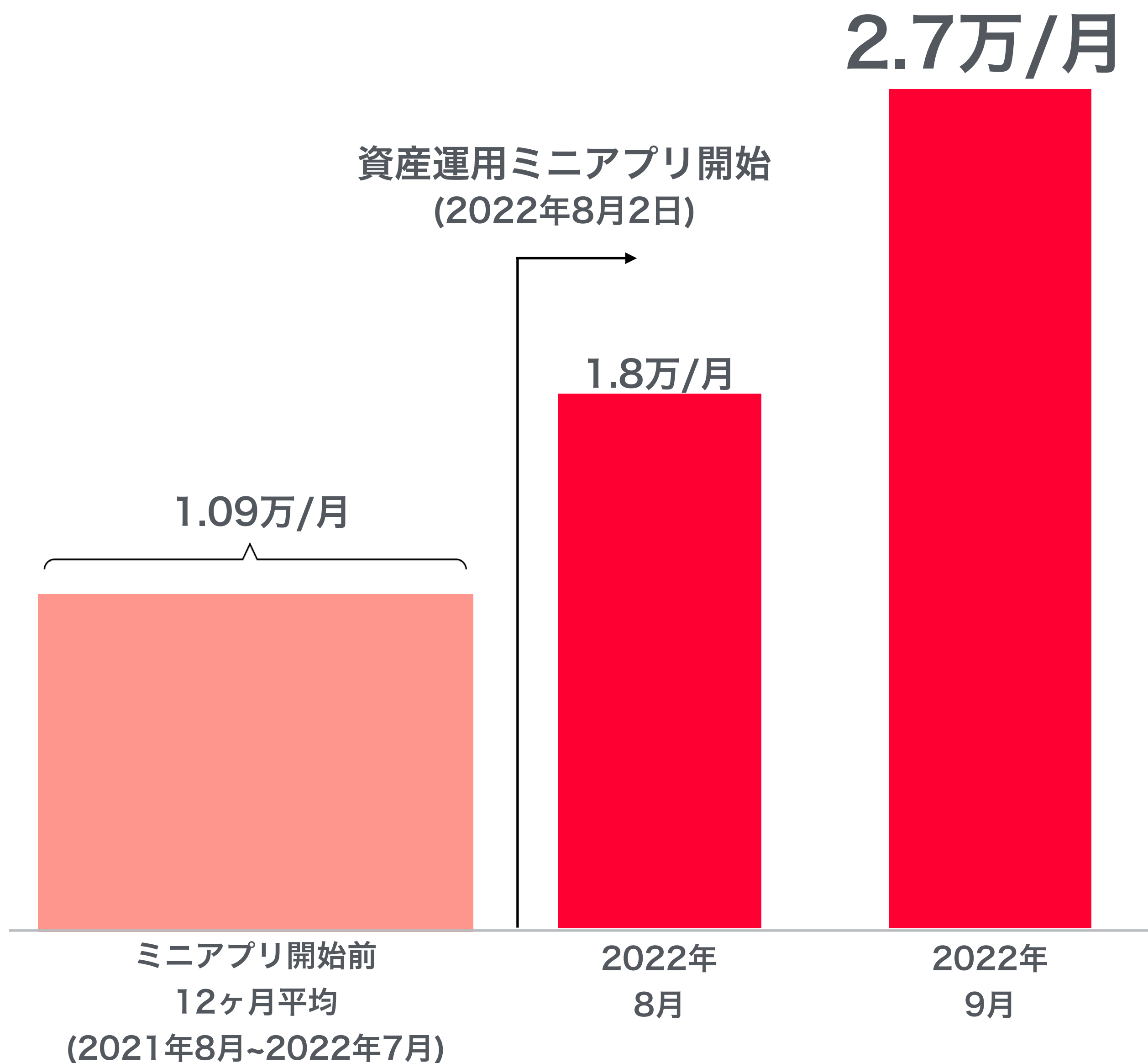
700万超

業界最速で
ポイント運用 累計運用者数
700万人超



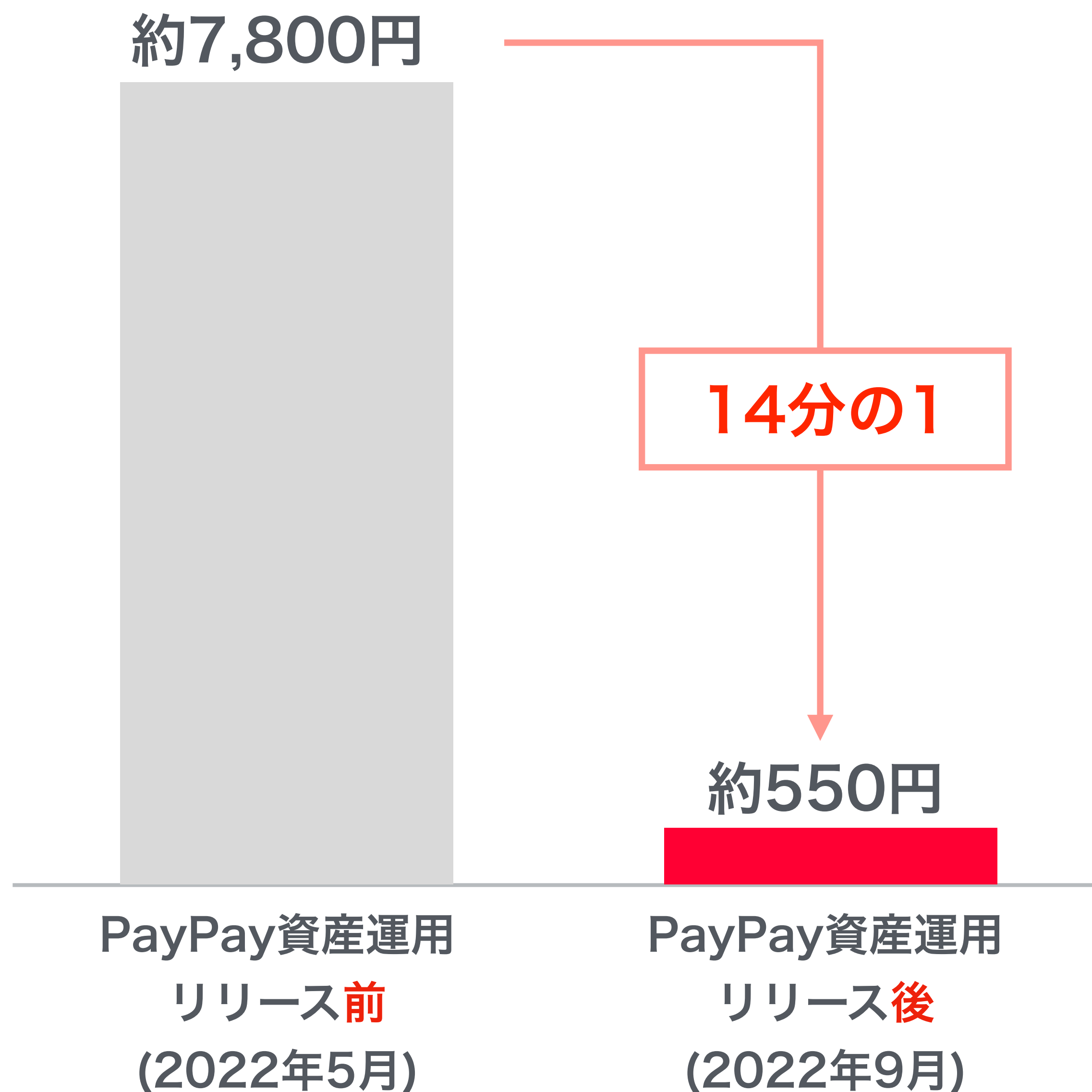
(注) 業界最速：疑似投資ポイント運用サービス取扱業者（au PAYポイント運用、クレディセゾン永久不滅ポイント運用サービス、dポイント投資・楽天ポイント運用、五十音順）と比較（2022年10月現在、PPSCインベストメントサービス調べ）

「PayPay証券」 新規口座開設数



ポイント運用からの誘導で
急増

「PayPay証券」 証券口座 獲得単価



PayPayとの連携で
大幅に低減

成長戦略

グループシナジーにより更なる成長へ

＝ SoftBank

金融セグメント

キャッシュレス決済

 PayPay  PayPay カード

決済代行

＝ SB Payment Service

スマホ証券

 PayPay 証券

サービス利用の増加
エンゲージメント向上

顧客基盤から送客
EC取扱高の増加

モバイル



エンタープライズ



コマース



金融事業 営業利益

グループシナジーを活用し
金融事業の成長を目指す

 PayPay  SB Payment Service

 PayPay カード  PayPay 証券



▲190億円

2022年度
(予想)



本日のまとめ

- 1 通期業績予想を上方修正 (営業利益 1兆500億円、純利益 5,400億円)
- 2 モバイル純増が好調に推移
- 3 PayPayとPayPayカードの統合で更なる成長へ
- 4 グループシナジーを活用し金融事業の成長を目指す



情報革命で人々を幸せに



